

第19回廃棄物学会研究発表会 参加案内

2008年11月19日(水)～11月21日(金)

京都大学 百周年時計台記念館・芝蘭会館・総合博物館

も く じ

第19回廃棄物学会研究発表会の開催にあたって	2
開催行事一覧	3
特別プログラム (無料・一般公開企画)	4
・第1部 廃棄物系バイオマスの利活用 - 生ごみや廃食用油などのバイオマスの利活用に向けて -	4
・第2部 近畿圏の廃棄物広域処理システムを考える - 大阪湾フェニックス計画をめぐって -	4
・第3部 特別講演『ごみを身近に感じる』	5
・第4部 3Rから「積極的2R」へ - ごみ有料化の向こうに見えるもの -	5
行事案内	6
・平成19年度廃棄物学会賞受賞記念講演	6
・研究発表(口頭発表・ポスター発表・国際ポスター発表)	6
・国際シンポジウム	6
・全国環境研協議会企画部会廃棄物小委員会 研究発表会(同時開催行事)	6
・若手の会	7
・【特典】京都大学総合博物館の無料観覧	7
・市民展示 ～循環型社会を目指す市民と専門家のコラボレーション & マイボトル・キャンペーン～	7
・施設見学会	8
・意見交換会	8
参加申込方法	9
発表ガイドライン	10
・口頭発表	10
・ポスター発表・国際ポスター発表	11
研究部会小集会開催内容一覧	12
セッションプログラム	16
会場案内図	32
会場へのアクセス・緊急時の問い合わせ先	35
タイムスケジュール	36

ご 注 意

～例年と異なる点があります。必ずお読みください～

1. 参加申込について(詳細はP.9および同封の参加申込方法をご覧ください)

事前に参加申込をされた方には、11月上旬にCD-ROM版論文集を郵送致します。

当日に参加申込をされた方には、受付にて、CD-ROM版論文集をお渡し致します。

簡易製本版論文集は、追加購入として事前申込された方に限って受け付けます。12,000円(実費)をご負担いただきますので、参加費とあわせて指定口座にお振込みください。研究発表会当日、会場受付にて引き換え致します。事前受付部数のみを製本しますので、研究発表会当日の申込・購入はできません。

事前申込の締切りは、9月26日(金)(振込みは10月8日(水)締切り)です。

2. 発表方法について(詳細はP.10-11の発表ガイドラインをご覧ください)

セッションプログラム(P.16～)に「ポスター1」または「ポスター2」と記載されている場合は、ポスター発表です。

ポスター1:1日目発表、ポスター2:2日目発表、その他は口頭発表です。

口頭発表、ポスター発表の各ガイドライン(P.10,11)を参照してください。

3. 施設見学会について(詳細はP.8および同封の参加申込方法をご覧ください)

今年の施設見学会は第一日目午前に1コースを開催します。そのため、見学会の申込は事前申込のみとなります。

定員になり次第、締切りとさせていただきます。

見学会への参加には、研究発表会への参加が必要です。研究発表会の事前申込も併せて行ってください。

4. 同時開催行事について(P.6をご覧ください)

主催は廃棄物学会ではありませんので、詳細については主催者に直接ご確認ください。

5. 台風や地震などの緊急時の対応は、臨時ホームページ(携帯電話のweb閲覧機能に対応、P.35参照)でお知らせします。

研究発表会についての情報は、ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

<http://www.jswme.gr.jp/> (廃棄物学会ホームページ)

<http://www.jswme.gr.jp/taikai2008/> (研究発表会専用ホームページ)

第 19 回 廃棄物学会研究発表会の開催にあたって

第 19 回廃棄物学会研究発表会実行委員会委員長
京都大学 環境保全センター 教授 酒井 伸一

第 19 回廃棄物学会研究発表会が 11 月 19 日（水）～21 日（金）の 3 日間、京都大学時計台記念館を中心とする会場で開催されます。京都での廃棄物学会研究発表会開催は、2002 年の第 13 回研究発表会以来 6 年ぶりの開催です。今回の研究発表会では、約 350 件の研究発表が、6 会場を使って各方面の学会員からなされます。特別企画としては、環境考古学の安田喜憲先生からの特別講演、「3 R から積極的 2 R へ」「廃棄物系バイオマスの利活用」と題したシンポジウムなどを用意しています。加えて、設立 25 年を迎えた大阪湾フェニックスセンターの企画によるシンポジウム「近畿圏の廃棄物広域処理システムを考える」も用意されています。このほか、研究部会の小集会も夕刻以降の時間を中心に配置され、また市民団体等との協働による展示が、京都大学総合博物館で企画される予定です。総合博物館には、京都大学のさまざまな分野の研究者が、文化史・自然史・技術史の各分野で過去 100 年間に収集・研究してきた学術標本資料・教育資料が展示されており、廃棄物学会参加者は無料で観覧できます。

廃棄物学会は、設立以来約 18 年を経過し、変革期を迎えています。第 9 期（2006～2008 年）で打ち出された法人化方針と財政危機対策は、学会活動に大きな影響を与えつつあります。今回の研究発表会を大学での開催としたこと理由の一つに、こうした背景があることも否定できません。こうした法人化や財政対策に力を注がなければならない反面、アジア太平洋地域への学会活動の展開や学会誌の電子化展開など、より魅力ある学会への展開も欠かせません。こうしたなかで、廃棄物学会に宿命づけられた性格を、あらためて認識せねばならないように思えます。つまり、学術コミュニティが有すべき科学的合理性と一般社会がもつ社会的合理性の双方を有する学会活動を通じてはじめて、公共の科学として廃棄物学会は貢献できるという意味です。科学は現在進行形で変わるものであり、一方、社会は時間の経過にかかわらず頑強な知見を求めます。また場面によっては、社会は状況に応じて対応できるしなやかさを求めます。この双方の要請に応えていかねばならないという宿命です。まさに、科学者の社会的責任と市民の社会的責任が何かを問いかけながら、新たな知見を生み出さねばならないと言えます。ちょうど、「廃棄物学会」が「廃棄物資源循環学会」に改名することを決断しつつある今、廃棄物をめぐる学術コミュニティのあり方を改めて問う場面にきているのです。

重い背景をもちつつも、秋たけなわの京都での研究発表会開催です。水曜から金曜までの学会でたっぷり頭を使った後、京都の秋を堪能していただければ幸いです。



開催行事一覧

行 事		日 時	会 場	備 考 な ど
特別プログラム	第1部：廃棄物系バイオマスの利活用 - 生ごみや廃食用油などのバイオマスの利活用に向けて -	11月19日(水) 13:00 - 17:00	時計台百周年記念ホール	一般公開企画(無料) P.4 - 5をご覧ください
	第2部：近畿圏の廃棄物広域処理システムを考える - 大阪湾フェニックス計画をめぐる -	11月20日(木) 10:45 - 12:15		
	第3部：特別講演「ごみを身近に感じることに」	11月20日(木) 14:30 - 16:00		
	第4部：3Rから「積極的2R」へ - ごみ有料化の向こうに見えるもの -	11月20日(木) 16:15 - 17:50		
廃棄物学会賞受賞記念講演		11月21日(金) 11:20 - 11:50 11:35 - 12:05 11:35 - 12:05	第1会場 第3会場 第4会場	P.6をご覧ください
研究発表	口頭発表	11月19日(水) 13:00 - 11月20日(木) 9:30 - 11月21日(金) 9:30 -	P.16 - 31をご覧ください	
	ポスター発表・国際ポスター発表	ポスター1: 11月19日(水) 17:10 - 18:30 ポスター2: 11月20日(木) 12:50 - 14:10	芝蘭会館 本館1階、2階 ロビー、第5会場	P.16 - 31をご覧ください 公開掲示時間: 11月19日(水) 15:00-18:30 11月20日(木) 9:00-14:10
国際シンポジウム		11月19日(水) 15:00 - 17:00	第4会場	P.6をご覧ください 使用言語:英語
研究部会小集会		部会によって異なります。P.12 - 15をご覧ください		
若手の会		11月19日(水)18:45 - 20:30	第3会場	P.7をご覧ください
市民展示		11月19日(水) - 21日(金)	京都大学総合博物館	一般公開企画(無料) P.7をご覧ください
施設見学会		11月19日(水) 9:00 - 13:00	P.8をご覧ください	
同時開催	全国環境研協議会 企画部会廃棄物小委員会	11月21日(金) 13:00 - 16:30	第7会場	P.6をご覧ください
意見交換会		11月20日(木) 18:00 - 20:00	第2、3会場	P.8をご覧ください

第1部：廃棄物系バイオマスの利活用 - 生ごみや廃食用油などのバイオマスの利活用に向けて - (11月19日(水)13:00-17:00)

生ごみや紙類、廃木材や剪定枝、廃食用油など、都市からその多くが排出される廃棄物系バイオマスの利活用は、適正処理・循環型社会構築に資するのみならず、バイオマスがカーボンニュートラルであることから、低炭素社会に向けた具体的な取り組みとして、わが国だけではなく、世界的な関心を集めている。

現在、廃棄物系バイオマスの利活用の促進を図るべく、技術開発や制度面での充実に向けて、多方面でさまざまな取り組みがなされている。そこで、今回、京都議定書採択の地である京都で、シンポジウムを行うことで、廃棄物系バイオマスの利活用に具体的に取り組んでいる関係者の連携をさらに強固なものとしたい。

事例報告とパネルディスカッション

開催都市(京都市)、関係省庁、全国バイオディーゼル協議会などの関係協議会および廃棄物学会研究者

関連研究の発表

京都バイオサイクルプロジェクトに関わる研究発表および一般研究発表より6題(P.16を参照ください)

第2部：近畿圏の廃棄物広域処理システムを考える - 大阪湾フェニックス計画をめぐって - (11月20日(木)10:45-12:15)

広域臨海環境整備センター法に基づき、海面埋立による廃棄物の広域的最終処分を行う事業体、大阪湾フェニックスセンターが設立して昨年で25年、実際の処分場が稼働しておよそ20年が経過した。

この間、近畿圏における廃棄物の最終処分は、一廃、産廃とも、フェニックスに大きく依存する構造ができあがり、この域圏での今後の廃棄物処理システム考えるとき、その存在なしで論じることはできない。このようにわが国の大都市圏の廃棄物処理システムの中で、フェニックスは近畿圏を大きく特徴づけるものとなっている。

そこで、フェニックスがこの四半世紀、近畿圏の廃棄物処理に果たしてきた役割とその意義について、事業主体、排出者(自治体)、処理業界、研究者等、さまざまな立場から、検証する機会とする。

大阪湾フェニックス事業の25年
自治体から見たフェニックス事業
産廃処理とフェニックス
阪神淡路大震災とフェニックス
廃棄物処理システムの観点からみたフェニックス事業

佐藤 哲志 (大阪湾センター 常務理事)
未定 (自治体)
吉村東洋男 (大阪府産廃協会 理事)
英保次郎(財団法人ひょうご環境創造協会 総務部次長)
山本攻 (大阪市環境科学研究所)

コーディネーター

浦邊真郎 (アーシン)



第3部：特別講演「ごみを身近に感じること」(11月20日(木)14:30-16:00)

自然から有価物を収奪し、不要物(廃棄物)を遠方に排除する文明は、栄華を極め、そして衰退していった。この歴史は、持続の難しさを教えてくれる。「持続のために必要なこととはなにか」を、ひとことで表すことは簡単ではないが、「ごみを身近に感じること」がヒントを与えてくれるはずである。文明の興亡を解き明かす環境考古学と、「現代社会でなにを实践できるのか」という観点から、「ごみを身近に感じること」(たぶん、これは廃棄物学会の原点なのである)の2題の特別講演を行う。

ごみから見える美と慈悲の文明
トイレ掃除が心を磨く

安田喜憲 (国際日本文化研究センター 教授)
鍵山 秀三郎 ((株)イエローハット 相談役)

第4部：3R から「積極的 2R」へ - ごみ有料化の向こうに見えるもの - (11月20日(木)16:15 - 17:50)

3R という言葉は広まってきた。「経済的にも 3R に向かう方向」への誘導は、誰しも認めるところである。その具体的な方策として、これまで、3R に見向きもしなかった人達をも巻き込む身近で強力なものが「ごみ有料化」がある。しかし、その実施に当たって、粗大ごみを有料とするのか、可燃ごみだけなのか、あるいは資源ごみも含むのかなど、議論は広がる。有料化は、経済的なインセンティブを伴うので、それだけ、インパクトがあるのだ。

しかし、「ごみ有料化」の到達点は「ごみが減る」ことだけなのだろうか。身近な暮らしを地球に優しい方向へ向ける推進力となるのではないか。すなわち、リサイクルの推進よりも、「要らないものは買わない(reduce)。何度でも使う(reuse)。」2R に進むことが望ましい。さらに、「しない」という否定的な言い方より、「しよう」という積極的な動きに結びつけることはできないものであろうか。

この積極的 2R の普及・推進には、「経済的インセンティブ」と「2R スタイルの方がスマート」の両輪が有効である。「ごみ有料化」の枠を飛び出し、積極的 2R の普及推進について、市民、流通事業者、行政、学者の立場から議論を行う。

パネラー 未定 (百貨店協会)
未定 (京エコロジーセンター)
未定 (環境省)
松藤康司 (福岡大学 工学部 教授)

コーディネーター 浅利美鈴 (京都大学 環境保全センター)



行事案内

平成 19 年度廃棄物学会賞受賞記念講演

- 11月21日(金) 11:20 - 11:50 第1会場 奨励賞 橋本 征二 ((独)国立環境研究所)
「ストック型社会に向けたシステム分析の展開」
- 11月21日(金) 11:35 - 12:05 第3会場 論文賞 平井 康宏 (京都大学)
「自動車用鉛バッテリーの静脈フロー推定」
- 11月21日(金) 11:35 - 12:05 第4会場 奨励賞 石井 一英 (北海道大学)
「廃棄物に起因する土壌・地下水汚染対策」

研究発表 (口頭発表・ポスター発表・国際ポスター発表)

発表数: 338 編 (口頭発表: 208 編、ポスター発表: 130 編 (国際ポスター発表: 43 編))

ポスター発表に対して「優秀ポスター賞」の表彰を行います。優秀ポスター賞は、第二日目 意見交換会において審査結果の発表・表彰を行うと共に、後日、廃棄物学会ニュース等に掲載いたします。

詳細はセッションプログラム (P.16 - 31) をご覧ください。

国際シンポジウム

日 時: 11月19日(水) 15:00 - 17:00

場 所: 第4会場 (芝蘭会館稲盛ホール)

シンポジウムテーマ “Treatment of Waste Plastics, Paper & Technology of RPF (RDF)”
(廃プラ・古紙の処理と燃料化)

使用言語: 英語 (通訳はありません)

内 容:

日本側講演者

- 1) “A context of “RPF business” considered from the disposer’s viewpoint in Japan”
(我が国に於ける処理業者側の視点から考察された『RPF事業』の状況について)

井出 保

(社)大阪府産業廃棄物協会 (株)アイデックス)

- 2) “Recent Operational Performance of the Omuta-Arao RDF Production Plant and the Omuta Recycle Power Plant”

(大牟田・荒尾 RDF センター及び大牟田リサイクル発電所における最新の運転状況)

竹田 航哉

カワサキプラントシステムズ(株)

韓国側講演者

- 1) “The Current Status and Prospectives of RDF(RPF) in Korea”
(韓国の固形燃料現況と展望)

Byung-Hoon Kim

Ministry of Environment, Korea

- 2) “Technical Development for Manufacturing Solid Fuel and Increasing Energy Recovery from Combustible Solid Waste in Korea”

(国内廃棄物の固形燃料製造及びエネルギー活用増進のための技術開発)

Kyoon-Duk Yoon¹, Jong-In Dong²

1:Korea Testing Laboratory, 2:The University of Seoul

コーディネータ: 川本 克也 ((独)国立環境研究所)

< 同時開催行事 > 全国環境研協議会企画部会廃棄物小委員会 研究発表会

主 催: 全国環境研協議会企画部会廃棄物小委員会

日 時: 11月21日(水) 13:00 ~ 16:30

場 所: 芝蘭会館別館研修室 (第7会場)

若手の会

日 時： 11月19日(水) 18:45 - 20:30

場 所： 第3会場

一昨年から恒例になりました「若手の会会員夏合宿」を本年度も強行したいと思います。総会においては、この成果と今後の若手の会の方向性を討論していきたいと考えております。今年度の活動として夏合宿を行い「若手の会会員の親睦を深め、今後の会の方向性を確認」していきたいと考えており、総会では、この成果を紹介し、さらに研究分野勢力絵図を作成し、若手の会がより団結して活動していけるよう盛り上げます！」その後の懇親会では、さまざまな立場の会員で（お酒の力も借りて）さらにリラックスした雰囲気の中、より親睦を深めてもらいたいと考えています。若手の会は、「社会人・学生会員の交流・ステップアップの場」、などの機能も有しています。会費は、社会人会員3000円、学生会員1500円程度を予定しています。このように、本年度の若手の会は、より親睦を深めていくことを目標にやっていきたいと思っております。みなさま奮ってご参加ください。準備の都合上、参加希望の方は事前に下記までご連絡ください。

詳しい情報は、<http://www.jswme.gr.jp/wakate/>をご覧ください。

参加希望連絡先：若手の会事務局 総務 平田 修 (FAX: 092-863-8248)

【特典】京都大学総合博物館の無料観覧

今回、学会参加者は、**京都大学総合博物館を無料で観覧いただけます。**

京都大学総合博物館には、京都大学の様々な分野の研究者が、過去100年間に収集・研究されてきた貴重な学術標本資料・教育資料が文化史・自然史・技術史の各分野にわたって多数保存されています。

通常観覧料400円のところ、今回、特別のご厚意で、学会参加証を提示すれば、無料で観覧できることになりました。この機会に、是非ご覧ください。

京都大学総合博物館では、期間中、下記の通り、市民展示も行っております。あわせてお立ち寄りください。

博物館の詳細等につきましては、<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html> をご覧ください。



市民展示 ～ 循環型社会を目指す市民と専門家のコラボレーション & マイボトル・キャンペーン ～

一般公開企画として、市民団体等との協働による展示やワークショップ、交流会などを行います。参加費無料で一般の方も参加できます。

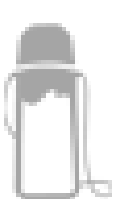
期 間： 11月19日(水)～11月21日(金) (展示は30日まで実施)

場 所： 京都大学総合博物館 1階 エントランス・ホール

内 容： 市民に紹介したい研究の情報発信、市民活動からの情報発信、市民団体による環境教育プログラムの実施、市民と学会員の意見交換会 など、多様な企画を計画しています。

プログラムの詳細は、<http://www.jswme.gr.jp/taikai2008/uc.htm> をご覧ください。

マイボトルで学会参加! ～ マイ を持参して、リデュース型の研究発表会に ～



今回の研究発表会では、飲み物の無料サービスはありません。市民展示会場では、老舗店による本格的な日本茶をご用意しています(100円程度)。マイボトルなどをもってお立ち寄りください。そのほか、周辺のいくつかのカフェでもコーヒー等のテイクアウトが可能です。

テイクアウト可能なカフェの詳細情報をはじめ、マイボトル・キャンペーンに関する情報は、<http://www.jswme.gr.jp/taikai2008/mybottle.htm> をご覧ください。

マイボトルは、自己責任のもと、清潔な状態でお持ち下さい。

協賛：ロック DE お茶! / 給茶スポット事務局、袋布向春園本店、象印マホービン株式会社 ほか

施設見学会

施設見学コース

日 時	内 容	定 員	参加費
11月19日(水) 9:00~13:00	9:00 集合：京都駅八条西口（団体バスのりば） 京都市内3施設を見学（見学時間：約2時間） ・京都市廃食用油燃料化施設 ・ガス化メタノール合成技術実験設備 ・バイオガス化技術実証プラント 13:00 京都大学吉田キャンパス到着 （お弁当は見学途中の車中で配ります。）	80名	2,000円 弁当希望の場合は3,000円

申込方法

同封の見学会申込書にご記入の上、FAX(03-3769-1492)にてお申込ください。

先着順に受付します。申込書到着後、申込状況を確認し、連絡担当者の方にメールまたはFAXにて連絡します。

参加費の入金方法は、上記の連絡の際に記載しますので、それ以前のお振込みはご遠慮ください。

事前申込の場合、当日、現金でのお支払いはできません。

申込締切：平成20年9月30日（火）先着順。（定員を大きく越えた際はお断りする場合があります。）

注意点

- ・施設見学会の参加には、研究発表会への参加が必要です。研究発表会の事前申込もあわせて行ってください。
- ・参加者の都合によりキャンセルされる場合は、参加費は返却いたしません。
- ・事前申込みで定員に満たなかった場合のみ、当日受付を行います。
- ・（昼食に関する注意点）見学コース途中にコンビニエンスストア等はありません。京都駅構内又は京都大学構内のコンビニエンスストア、レストラン等をご利用ください。事前にお申込みいただければ、お弁当（1,000円）の手配をいたします。

申込・問合せ先

廃棄物学会事務局

TEL: 03 - 3769 - 5099

FAX: 03 - 3769 - 1492

意見交換会

日 時： 11月20日(木) 18:00~20:00

場 所： 京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール ・（第2・第3会場：P.33をご覧ください）

参加費： 【事前申込】:5,000円 ただし、学生会員・登録市民団体会員は2,500円 非会員は6,000円

【当日申込】:6,000円 ただし、学生会員・登録市民団体会員は3,000円 非会員は7,000円

申込方法:

【事前申込】研究発表会の事前申込書にてお申込ください。

事前申込後、不参加の場合でも参加費の返金はいたしません。

【当日申込】2日目（11月20日）午前から受付します。

研究発表会参加証を意見交換会受付にお出してください。



伝統文化「京舞」で
意見交換に華を添えます。

参加申込方法

論文集の配布に関して、次の点を特にご注意ください。

- ・CD-ROM 版論文集：研究発表会へ参加申込をされた方全員に、CD-ROM 版論文集を配布致します（事前受付、当日受付を問いません）。なお、会場での要旨集等の配布や、CD-ROM 版論文集の閲覧・印刷サービス等はありません。
- ・簡易製本版論文集：製本版論文集を必要な方には、追加購入として事前申込された方に限って、CD-ROM 版から出力した簡易製本版論文集を用意致します。実費として 12,000 円をご負担いただきますので、参加費とあわせて、指定口座にお振込みください。研究発表会当日、会場にて引き渡し致します。事前受付部数のみを製本しますので、研究発表会当日の申込・購入はできません。

1. 申込方法

同封の参加申込書または学会ホームページに掲載の参加申込書(XLS形式)に必要事項を記入し、電子メール、FAX または郵送にて送信し、参加費を下記指定銀行口座にお振込みください。電子メールで申込みされる方は、学会ホームページ (<http://www.jswme.gr.jp/>) に掲載の参加申込書(XLS形式)をご利用の上、sanka19th@jswme.gr.jp まで送信してください。

指定銀行口座 銀行名：みずほ銀行 芝支店 (店番号：054)
 口座名：廃棄物学会研究発表会 (ハクブツガクカクソウゴクカクヨカイ)
 口座番号：普通 2504706
 振込締切日：平成20年10月8日(水) 振込手数料はご負担願います

- ・申込書の会員資格の該当欄に 印をご記入ください。
- ・入金を確認後、11月上旬に参加証及びCD-ROM版論文集を送付します。
 申込後、発表会及び意見交換会に参加されなかった場合でも参加費は返金いたしません。
 領収書は参加証に添付されています。別途必要な場合は大会当日に参加証をお持ちの上、総合受付までお越しください。
 事前申込を基本としますが、研究発表会当日の参加受付も行います。

【簡易製本版論文集追加購入希望、意見交換会事前申込希望の方】

- ・申込書のそれぞれの所定の欄に 印をご記入ください。
- ・研究発表会参加費との合計金額を一括してお振込みください。
- ・簡易製本版論文集を追加購入の方：引換券を参加証等と同封します。研究発表会当日、会場受付にて引き換えください。
- ・意見交換会を事前申込の方：受付済みのシールを貼付した参加証を送付します。当日はそのまま意見交換会場へお入りください。

2. 参加費

	研究発表会参加費 (CD-ROM版論文集代)	簡易製本版論文集 (追加購入費)	意見交換会参加費	
			事前申込	当日受付
正会員 公益、賛助会員所属	8,000 円	12,000 円	5,000 円	6,000 円
学生会員 登録団体市民会員	4,000 円		2,500 円	3,000 円
非会員	12,000 円		6,000 円	7,000 円

3. 申込締切

平成20年9月26日(金)(振込みは平成20年10月8日(水)までをお願いします)

事前申込が出来なかった方は、会場にて当日受付をご利用ください。

4. 申込・問合せ先：廃棄物学会事務局

〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5階 TEL：03-3769-5099 FAX：03-3769-1492

口頭発表

第 19 回研究発表会における一般口頭発表は、**液晶プロジェクターでの発表とします。**

1. 基本事項

- 発表者であっても参加申込、参加費は必要です。
- 講演時間に遅刻した場合は、発表できないことがあります。
- **発表の講演時間は、発表 10 分、質疑応答 5 分の計 15 分です。** 時間を超過した場合には、発表の途中であっても座長に打ち切られることがあります。
- 聴衆者に良く理解されるような発表を行ってください。特に、継続性のある研究を発表される場合には、これまでの発表との違い、今回の発表の特徴を明確にして発表を行ってください。

2. 液晶プロジェクターでの講演について

(1) ファイルの作成について

- **ファイル名は、「セッション番号 演者の氏名.ppt」としてください。**
(例: 「A1-1 廃棄物太郎.ppt」)
- 講演ファイルは Microsoft PowerPoint® で作成し、ファイルの容量は最大でも 10MB 程度に収まるようお願い致します。
- 液晶プロジェクターに接続されるノートパソコンのオペレーティングシステムは Microsoft Windows® XP で、使用ソフトは PowerPoint® 2003 です。この仕様に基づいた動作確認を行った上でファイルを会場に持参してください。PowerPoint® 2007 のフォーマット(拡張子 pptx)では受付できませんので、必ず PowerPoint® 2003 形式で保存するようお願い致します。

(2) ファイルの受付について

- 「講演ファイル受付」は、時計台記念館 1 階(総合受付の隣)および芝蘭会館 1 階にあります。詳細は、会場案内図 P.32-33 を参照ください。
- 初日(11月19日)は講演ファイル受付が混雑するおそれがありますので、初日午後の発表者は早めの受付をお願いします。

- 講演ファイルは、USB メモリー、CD、または、DVD で研究発表会会場に持参してください。
- 開催期間中は随時、講演ファイルをお頂かりしますが、遅くとも各発表セッション(例えば A 1、C 1 など)開始 15 分前までに「講演ファイル受付」に USB 等を持参してください。担当者がファイル名等を確認し、インストールを行います。

(3) その他

- 各講演会場に講演ファイルをインストールしたノートパソコンと液晶プロジェクターを用意します。講演者自らがノートパソコンを操作し、講演を行ってください。
- 講演ファイルは大会終了後に実行委員会が責任を持って消去致します。

ポスター発表・国際ポスター発表

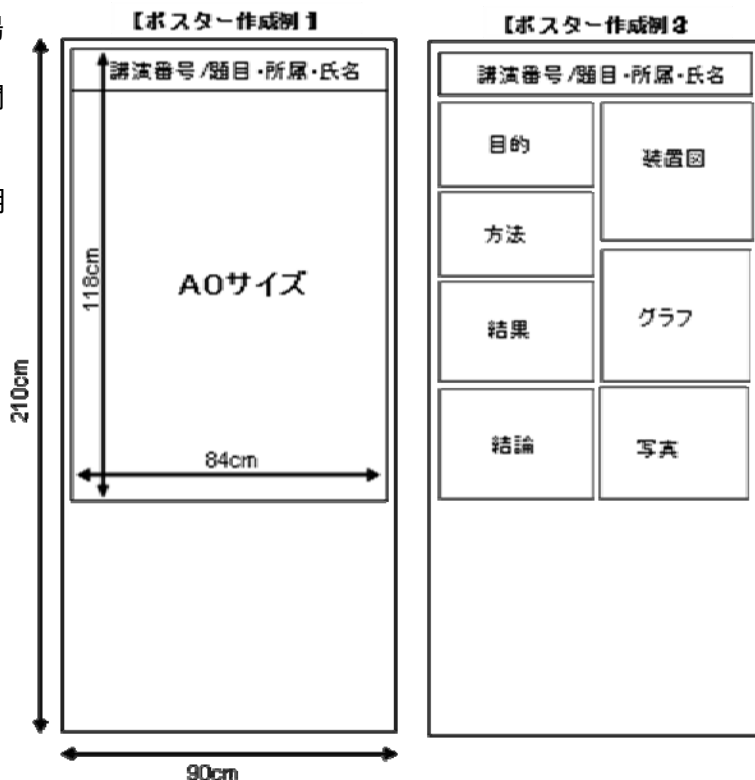
ポスター発表は、2日に分けて行われます（ポスター1は1日目、ポスター2は2日目）。

また、優れたポスターに対して、優秀ポスター賞を設けています。審査は論文講演者、理事、常設委員会委員、実行委員会委員からの投票で行います。2日目の意見交換会において、発表および表彰を行いますので、力作を以てご参加ください。

1. 発表者であっても参加申込、参加費は必要です。
2. 継続性のある研究を発表される場合には、これまでの発表との違い、今回の発表の特徴を明確にして発表を行ってください。
3. 論文1件あたりのポスター貼り付けスペースは、タテ118cm×ヨコ84cm（A0サイズ）とします（タテ210cm×ヨコ90cmのボードを使用）。ただし、パネルの最上部タテ10cm部分には必ず大きな文字で、講演番号、題目、所属、氏名を印刷するか、または記入した用紙を貼ってください。ポスターを貼り付けるパネルの色は、アイボリーです（あくまで参考としてください）。
4. ポスターの理解度を深めるために、実験サンプルやアルバムを持ち込むことは、かさばらなければ可とします。ただし、ビデオ、パソコン等電源を必要とするものは不可とします。また、商品宣伝の意図を強く出した内容のものも不可とします。
5. ポスターの貼付、発表及び撤収時間はそれぞれ以下のとおりです。
貼付：11月19日（水）12:00～15:00
発表：ポスター1 11月19日（水）17:10～18:30（公開掲示時間 15:00～18:30）
ポスター2 11月20日（木）12:50～14:10（公開掲示時間 9:00～14:10）
撤収：11月20日（木）18:00
6. 発表者は、ポスター貼付前にポスター会場の受付に到着した旨を伝え、発表者リボン、貼り付け用ピンを受け取り、注意事項を聞いてください。
7. 発表者は発表時間に、ポスターの前で説明を行ってください。
8. 撤収は必ず発表者の責任でお願いします。撤収時間を過ぎた場合には、会場スタッフがポスターを撤収・廃棄しますが、毎年多大な負担となっています。ご協力ください。

撤収期限

11月20日（木）18:00
厳守してください



研究部会小集会 開催内容一覧(1)

日時・会場	題 目 (開催部会名)
11月19日(水) 15:00-16:45 第6会場	「廃棄物の処理及び有効利用に係る費用と住民が納得できる負担額」 (廃棄物計画部会)
<p>趣旨： 環境省では、平成17年5月の廃棄物処理法の改正を受け、一般廃棄物処理事業のコスト分析手法や有料化の進め方、一般廃棄物の適正な循環的利用や適正処分を考え方を示すこと等を目的として「一般廃棄物会計基準」、「一般廃棄物処理有料化の手引き」及び「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針」を策定しました。また、今後はこれらを各地方公共団体に配布し、普及を進めることで循環型社会の形成に向け、3Rに重点を置いた最適なりサイクル・処理システムの構築を図っていくこととしています。</p> <p>一方、廃棄物計画部会の資源有効利用Gは、これまで廃棄物を資源ととらえ、廃棄物の有効利用について法制度や政策面、環境税や拡大生産者責任といった様々な視点で議論を進めてきました。しかし、廃棄物会計基準にある廃棄物処理事業のコストに視点を置いた議論は行ってこなかったように思います。これは、行政が一般廃棄物の処理を行う場合、公衆衛生の確保、周辺環境や住民への被害防止を優先し、さらに将来起こるであろう地球温暖化や資源枯渇等の損失費用を考慮したことにより、実際の費用が明確にされていなかったことが最大の理由と考えます。特に、行政が行う廃棄物処理の場合、上記の理由によりバランスシートを黒字にできないことも考えられます。</p> <p>本小集会では、一般廃棄物会計基準が策定された今、循環型社会の形成のため、現時点で廃棄物の処理または有効利用に支払われる費用がどのような意味をもち、どの程度までなら市民が納得して負担できるのかといった疑問について、さまざまな立場から意見を求め、議論したいと考えています。</p> <p>プログラム： 代表挨拶 古市 徹(北海道大学大学院工学研究科) パネルディスカッション コーディネーター 井土 将博(国際航業株) パネラー(予定) 計画部会員又は外部の有識者 3~4名</p>	
11月19日(水) 18:45-20:30 第1会場	「バイオマス利用はどのような資源と廃棄物を生むのか?再点検2」 (バイオマス系廃棄物研究部会)
<p>趣旨： バイオマス系廃棄物研究部会は、平成20年度廃棄物学会研究討論会において表記のタイトルでシンポジウムを開催した。バイオマス系廃棄物は食糧と競合することがない優れた未利用資源であるが、一方では一箇所でまとまった量を入手することが困難であるので、その利用は地産地消型にならざるを得ないと考えられる。シンポジウムではバイオマス資源として廃棄物の利活用に特化して、廃棄物を原料とするときの可能性と課題、バイオマス利用はどのような資源と廃棄物を生むのかを再点検した。当日の4名の演者によっておこなわれた熱のこもった講演は好評を博したが、講演後の討論の時間が不足していたので別に時間をとって十分に討論したいという希望が寄せられた。この希望を受けて、部会ではシンポジウムの第二弾を企画した。</p> <p>講演者：未定(第一弾のおさらいも兼ねて2名程度)</p>	

研究部会小集会 開催内容一覧(2)

日時・会場	題 目 (開催部会名)
11月19日(水) 18:45-20:30 第2会場	「埋立地の安定化を調査する～「埋立地現場調査法」より～」 (廃棄物埋立処分研究部会)
<p>趣旨： 最終処分場は廃棄物処理の基本施設である。当所は、廃棄物の散乱を制御するための施設であったが、今日では廃棄物が含む(化学)物質の蓄積場所として、その制御に力点が移ってきている。こうした現状において、最終処分場の安全・安心な供用が求められており、安定化の概念やそのためのモニタリング手法を確立することが必要になっている。安全であり安心な最終処分場を供用し、埋立という使命を終えた処分場を適切に廃止に導くための出発点として、埋立物の変成と移動を含めた安定化現象の解明に焦点をあてた、「埋立地現場調査法」が地方環境研究所の研究者を中心に編纂された。日本の気象条件(温暖多湿)や地形地質さらには日本の埋立廃棄物の種類に応じた解析手法に焦点を当て、廃棄物層の変遷を解析するための手法に力を注ぎ、廃棄物埋立層について実際に調査・測定している研究者・技術者が多くの処分場で得た結果をもとに、各種の調査・測定法の限界を示したうえで、現場における調査法について記した。本小集会ではその内容について紹介する。</p> <p>プログラム： 司会：原雄(エコシステム千葉(株)) 1. 埋立地現場調査法の目指すところ：原雄(エコシステム千葉(株)) 2. 初動調査：小野雄策(埼玉県環境科学国際センター) 3. 浸出水水質：福井博(神奈川県環境科学センター) 4. 埋立地ガス：山田正人((独)国立環境研究所) 5. ボーリングと場内観測井：遠藤和人((独)国立環境研究所) 6. 埋立ごみと(微)生物環境：石垣智基(龍谷大学) 7. 比抵抗探査：香村一夫(早稲田大学) 残り：質疑</p>	
11月19日(水) 18:45-20:30 第4会場	「メタルリサイクル - 資源性と物質管理性の視点から(仮題)」 (有害廃棄物研究部会)
<p>趣旨： レアメタルの戦略的利活用とリサイクルの促進は、国際的資源需給の面からも重要な国家戦略の一つになりつつある。家電リサイクル法の品目追加(液晶テレビ等)においても、積極的研究開発の促進が謳われている。その一方、多くの金属化合物はヒトや生物への有害特性を有していることは知られているが、十分な研究がなされていない金属も多い。そこで、資源性と物質管理性の両側面から、メタルリサイクルに関する議論を行う。本研究会では部会メンバーに加え、本課題に関する専門家を招き、幅広い視点から議論を進めるものとする。</p> <p>プログラム(演者は調整中)： 1. レアメタルの利用とリサイクル最先端に関する話題 2. 廃電気電子機器の金属資源賦存量に関する話題 3. リサイクル手法による金属類の分配挙動に関する話題 4. 金属類の影響と環境基準に関する話題 5. 質疑と総合討論</p>	

研究部会小集会 開催内容一覧(3)

<p>11月19日(水) 18:45-20:30 第6会場</p>	<p>「日本の3Rについて制度・技術・経験の変遷」 (ごみ文化研究部会)</p>
<p>趣旨： わが国では、1955年代からの高度経済成長により大量生産、大量消費、大量廃棄という社会を招き、廃棄物の適正処理とその技術の確立を急速に成し遂げた。しかし、オイルショック(1973)を契機として、省資源化への見直しやリサイクルへの取り組みが始められ、今日まで、社会経済状況やライフスタイルの見直し、循環型社会への転換が進められてきた。 そこで本集会では、このわが国の3R経験をアジア各国の経済等のレベルに応じた適切な情報として提供することを念頭に、この間の法制度の整備、国と地方公共団体等の協働による取り組み、民間企業の自主的取り組み、NGOやNPOの積極的参加等による多面的・多角的な対応など、制度・技術・経験について報告し、討議する。 (本集会は「日本の3R制度・技術・経験の変遷に関する研究グループ」との共催です。)</p> <p>プログラム： 代表挨拶 松藤康司 (福岡大学) 趣旨説明 稲村光郎 (ごみ文化研究部会事務局) パネルディスカッション 司会 八木美雄 ((財)廃棄物研究財団) パネラー(予定) 大澤正明 ((財)日本環境衛生センター) 山本耕平 (株)ダイナックス都市環境研究所) 溝入茂 (早稲田大学) 交渉中 (京都市)</p>	
<p>11月20日(木) 9:30-11:15 市民展示会場</p>	<p>「リデュースを実現する販売システムの構築に向けて ～容器包装の発生抑制を考える～(仮)」 (消費者市民研究部会・社会経済部会 共催)</p>
<p>趣旨： 2006年の容器包装リサイクル法改正の議論では、容器包装の発生抑制が大きな焦点となり、その結果のひとつとして、現在、レジ袋有料化が全国的に進められつつある。しかしながら、レジ袋以外の容器包装については、今のところ目立った取り組みは見えていない。 そこで本小集会では、レジ袋以外の容器包装も含めた小売店によるリデュース活動を、マーケティングの視点から捉えなおし、どのような課題を抱えているのか、それを克服するにはどのような可能性があるのかについて、探っていきたい。</p> <p>報告： レジ袋有料化の現状と課題(仮)...消費者市民研究部会 小売店では、何ができて、何が難しいのか(仮)...小売店関係者(依頼中) 発生抑制に向けた販売と消費の取り組み事例(仮)...ごみ関係NPO(依頼中) マーケティングの眼からみた発生抑制型の買い物行動(仮)...マーケティング関係者(依頼中)</p>	
<p>11月20日(木) 10:45-12:15 第6会場</p>	<p>「市町村行政と廃棄物処理～一般廃棄物処理業の抱える問題点～」 (行政研究部会)</p>
<p>趣旨： 行政部会では、活動テーマに「再考!!Waste Management」を掲げ、主として一般廃棄物処理における現行システムを様々な角度から見直してきた。昨年の小集会では日本におけるごみ処理の担い手の歴史の変遷をさぐり、本年の討論会では、直営事業の収集業務に焦点をあて“ごみ処理の担い手は誰か”と問題提起を行ってきた。そして今回、引き続き一般廃棄物処理業にスポットをあて、現在抱える問題・課題を更に抽出することで、今後の市町村ごみ処理に対する展望をより新たにしたい。</p> <p>コーディネーター : 早川哲夫(行政研究部会長・麻布大学) パネリスト : 寄本勝美(早稲田大学)、庄司元((財)日本環境衛生センター)、溝入茂(東京都)、藤波博(川口市)、阿久津民和(日本環境保全協会)</p>	

研究部会小集会 開催内容一覧(4)

<p>11月21日(金) 9:30-11:30 第7会場</p>	<p>「廃棄物の評価・試験方法の最新情報と現状の課題について(仮題)」 (廃棄物試験検査法部会)</p>
<p>趣旨： 現在、試験検査法部会では、「再生製品環境安全性試験方法」、「アスベスト廃棄物処理に係る評価試験方法」など、いくつかの試験方法の学会規格化を検討しています。今回は、これら検討中の試験方法についての最新の情報を紹介します。また、最近の試験方法の話題として、現在、土壌調査を中心に行われているオンサイトでの簡易・迅速分析技術について最新の情報を提供します。</p> <p>これら最新の情報とあわせて、従来より実施されている現行の廃棄物の評価・試験方法の現状について紹介し、現状と課題について参加者との議論を予定しています。</p> <p>内容演題および講演者： (仮)再生製品環境安全性試験の学会規格化について 肴倉宏史(独)国立環境研究所) (仮)アスベスト廃棄物処理に係る評価試験方法の学会規格化について 山本貴士(独)国立環境研究所) (仮)オンサイトでの簡易・迅速分析技術の現状 (未定) (仮)廃棄物の評価・試験方法の現状と課題 豊口敏之(株)環境管理センター)</p>	
<p>11月21日(金) 13:00-14:45 第3会場</p>	<p>「廃棄物系バイオマスの有効利用の現状」 (リサイクルシステム・技術研究部会)</p>
<p>趣旨： 温暖化防止や再生可能という観点からバイオマスの利活用が促進され、飼料化施設やエネルギー転換施設が注目を集めている。折しも石油や飼料の価格高騰で追い風が吹いている一方で、原料の安定確保や制度的な制約など、その事業化に関しては課題も多い。本研究会では廃棄物系バイオマスに着目し、技術面、システム面、制度面から事例調査や解析等を行い、その結果を報告するとともに、自治体担当者や事業者、学識経験者の方にもご参加いただき、具体的な事例を交えてバイオマス事業の現状と課題、事業成立の要件等に関するパネル討論会を開催する。</p> <p>プログラム： 1 部会長挨拶 松藤敏彦(北海道大学) 2 趣旨説明 ワーキング活動報告(部会メンバー) 3 パネル討論 コーディネーター:行本正雄(中部大学) パネリスト:自治体担当者、バイオマス利用事業者、学識経験者、部会メンバー(いずれも調整中) 4 会場との質疑</p>	

セッションプログラム

特別プログラム第1部 廃棄物系バイオマスの利活用 - 生ごみや廃食用油などのバイオマスの利活用に向けて -
【 11月19日(水) 特別プログラム会場 13:00 17:00 】

- S1-1 京都バイオサイクルプロジェクトの概要及びシステム解析技術開発(第1報)
京都市環境局、京都高度技術研究所 中村 一夫、堀 寛明
京都高度技術研究所、アーシン 出口 晋吾
京都大学環境保全センター 矢野 順也、平井 康宏、酒井 伸一
- S1-2 京都バイオサイクルプロジェクト ガス化メタノール合成技術開発
(財)京都高度技術研究所、京都市 中村 一夫、堀 寛明
京都大学 酒井 伸一 (株)タクマ 井藤 宗親、鮫島 良二
- S1-3 京都バイオサイクルプロジェクト 高効率メタン発酵技術開発(第1報)
京都市環境局、京都高度技術研究所 中村 一夫 京都大学環境保全センター 酒井 伸一
京都市環境局、京都高度技術研究所 堀 寛明
(株)タクマ 春木 裕人、 宍田 健一、岩崎 大介、久堀 泰佑 大阪ガス(株) 坪田 潤
- S1-4 京都バイオサイクルプロジェクト バイオディーゼル原料の拡大を目的とした前処理技術の開発
(独)国立環境研究所 倉持 秀敏、大迫 政浩 日立造船(株) 岡田 正史
京都市、京都高度技術研究所 中村 一夫 京都大学 酒井 伸一
- S1-5 木質バイオマスを原料とした炭化処理・爆砕処理・過熱水蒸気処理の比較
東京農業大学 佐貫 安希子 大阪府立大学 大西 龍
東京農業大学 入江 満美、山口 武則、牛久保 明邦
- S1-6 水素発酵における基質濃度とpH制御の影響
東北大学大学院 清水 哲、亀田 知人、吉岡 敏明

A 1 ごみフロー解析/ごみ性状 【 11月21日(金) 第1会場 9:30 - 11:15 】

- ポスター1 A1-1 一般廃棄物実態調査の調査項目の変更と今後の展望
(独)国立環境研究所 田崎 智宏、大迫 政浩、山田 正人 (財)日本環境衛生センター 大塚 康治
- ポスター2 A1-2 東京都内から排出される廃プラスチックの東京圏におけるリサイクル実態
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 茂木 敏 (財)東京都環境整備公社 辰市 佑久
東京都環境局 中浦 久雄 首都大学東京大学院 大久保 伸、荒井 康裕、小泉 明
- A1-3 レジ袋の鉛含有に関する追跡調査研究
京都大学環境保全センター 佐藤 直己、浅利 美鈴、酒井 伸一
京都市環境局 山田 一男、瀬川 道信
- A1-4 ニカド電池に含まれるカドミウムのライフサイクルフロー
京都大学環境保全センター 浅利 美鈴 村田機械(株) 宮島 章
京都大学環境保全センター 酒井 伸一
- A1-5 使用済みパソコンの国内および国際リユース・リサイクルの比較
(独)国立環境研究所 吉田 綾、田崎 智宏、中島 謙一、寺園 淳
- A1-6 埼玉県内の事業系ごみ その1 簡易組成調査結果
埼玉県環境科学国際センター 川寄 幹生、磯部 友護、小野 雄策
埼玉県環境部 藤崎 智子、酒井 辰夫、土屋 雅子
埼玉県環境科学国際センター 長谷 隆仁 埼玉県環境部 堀口 浩二、田中 義彦
- A1-7 砂状の建設混合廃棄物破砕選別残さに含まれる熱しゃく減量の由来
(独)国立環境研究所 朝倉 宏 埼玉県環境科学国際センター 渡辺 洋一
(独)国立環境研究所 山田 正人 埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策
(独)国立環境研究所 井上 雄三
- ポスター2 A1-8 大阪市における都市ごみ焼却工場搬入ごみの性状調査
大阪市立環境科学研究所 酒井 護、山本 攻
- A1-9 経済社会に蓄積する潜在廃棄物および非潜在廃棄物推計の枠組み：建設鉱物の事例研究
(独)国立環境研究所 橋本 征二 和歌山大学 谷川 寛樹 (独)国立環境研究所 森口 祐一
- ポスター1 A1-10 製品の使用年数分布の定義、推定方法の整理とデータベース構築
(独)国立環境研究所 小口 正弘、田崎 智宏 東京大学 村上 進亮
(独)国立環境研究所 橋本 征二 東京大学 醍醐 市朗
- A1-11 循環型社会形成のための要因分解と脱物質化の諸対策の検討
(独)国立環境研究所 藤井 実、稲葉 陸太、南育 規介、田崎 智宏、橋本 征二、大迫 政浩、森口 祐一
みずほ情報総研(株) 松井 重和

A 2 減量化/有料化・経済的手法(1) 【 11月19日(水) 第1会場 13:00 - 14:30 】

- ポスター2 A2-1 店頭におけるアクションリサーチのレジ袋削減への効果
北海道大学 大沼 進、佐藤 智子

- A2-2 レジ袋有料化政策実態と課題 - 台湾と日本の取組みの検討から - 京都大学 蔡 佩宜
- A2-3 レジ袋有料化に関する予備的調査 沼津工業高等専門学校 大橋 平、渡辺 敦雄
- A2-4 都市域のゴミ処理有料化による減量持続性に関する研究 (株)栗本鐵工所 濱本 淳平 関西大学 和田 安彦
- A2-5 ごみ有料化が住民の意識・行動に与える影響と年齢層による違い 福岡大学 平野 仁志朗、高木 泰士、鈴木 慎也、立藤 綾子、松藤 康司
- A2-6 『ごみ袋減量カレンダー』による減量効果 自治会役員の取組実験(2) 環境カウンセラー(環境省)、伊達市循環型社会推進市民本部 中村 恵子 伊達市環境衛生課 野村 一夫
- A2-7 大学におけるごみ減量化・資源化活動 - 山形大学農学部における学生主体の取り組みを事例に - 山形大学大学院 川原 誉史 山形大学 小沢 互

A 3 有料化・経済的手法(2) 【 11月19日(水) 第1会場 15:00 - 16:45 】

- A3-1 ごみ有料化に対する賛否の変化は、いつ起きるのか? 永大産業(株) 西井 和浩 京都信用金庫 河合 満智子 京都府立大学 山川 肇
- A3-2 京都府内におけるごみ有料化施策要因と減量効果の検討 京都大学環境保全センター、京都府 池松 達人
京都大学環境保全センター 森安 洋平、平井 康宏、酒井 伸一
- A3-3 京都市家庭ごみ有料化とその他分別収集開始等による市民の意識・行動変化の分析 京都大学環境保全センター 森安 洋平 京都大学環境保全センター、京都府 池松 達人
京都大学環境保全センター、京都市 中村 一夫 京都大学環境保全センター 平井 康宏、酒井 伸一
- A3-4 家庭系危険有害廃棄物の安全な回収を促す経済的手法について 福島大学 沼田 大輔 京都大学 植田 和弘
- A3-5 一般廃棄物埋立処分コストの要因分析に関する研究 北海道大学大学院 大原 佳祐、松藤 敏彦
- A3-6 産業廃棄物税の排出抑制効果 パネルデータを用いた分析 岩手大学 笹尾 俊明
- A3-7 包括固定化担体を用いた高濃度排水の処理 日本大学大学院 鈴木 紗織 日本大学 大木 宜章、高橋 岩仁、関根 宏

A 4 住民意識 / 環境教育 【 11月20日(木) 第1会場 9:30 - 11:30 】

- A4-1 コンジョイント分析を用いた住民の考えるごみ分別の価値と負担の評価 芝浦工業大学 栗島 英明 (独)産業技術総合研究所 田畑 智博、楊 翠芬、玄地 裕
- A4-2 ごみ分別に係る自治会の役割と支援について 長野市役所 小池 啓道 近畿大学 坂田 裕輔
- A4-3 地域コミュニティの立地要因を考慮したごみ集団回収量のモデリング 岡山大学大学院 三輪 拓也、藤原 健史
- A4-4 ジャカルタ市の地域環境力に関する研究 名古屋大学 岡山 朋子
- A4-5 ごみ処理システムに対する住民満足度の調査手法に関する研究 北海道大学大学院 佐藤 法世、松藤 敏彦
- ポスター2 A4-6 3Rに係る行動変容方策とその効果に関する検討 岡山大学大学院 松井 康弘、盧 蘭芳 (株)地域計画建築研究所 小泉 春洋
積水ハウス(株) 宇野 雄二郎
特定非営利活動法人津山市消費生活モニター連絡会 佐々木 裕子、四方 由美子、波々部 郁子
津山市 朝田 一
- A4-7 ごみ焼却施設の環境教育機能について 大阪産業大学 花嶋 温子
- A4-8 道府県リサイクル認定制度に関する実態調査 (株)エックス都市研究所 都築 淳、山口 直久 (独)国立環境研究所 大迫 正浩
- ポスター1 A4-9 ウェイスト・ピッカーの廃棄物管理事業への参加促進 - プエノスアイレスの事例 (独)国際協力機構 吉田 充夫、進藤 玲子、田口 達
- A4-10 地域の廃棄物政策が小売店における消費者の購買行動に与える影響の分析 大阪大学大学院 渡辺 真也、山本 祐吾 早稲田大学高等研究所 齊藤 修 大阪大学大学院 盛岡 通

A 5 廃棄物管理・計画・評価 【 11月21日(金) 第6会場 13:00 - 14:45 】

- ポスター2 A5-1 都市構造物における経年的資材投入原単位の推計に関する研究 和歌山大学大学院 東岸 芳浩、稲津 亮、内藤 瑞枝、谷川 寛樹 (独)国立環境研究所 橋本 征二
- A5-2 循環型社会に対応した廃棄物詳細品目の類型化の検討(第2報) (財)日本環境衛生センター 植木 祥治、立尾 浩一 (独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人

- A5-3 廃棄物系バイオマス循環利用における動脈静脈連携の分類と効果
(独)国立環境研究所 稲葉 陸太、藤井 実、南斉 規介、大迫 政浩
みずほ情報総研(株) 羽田 謙一郎、高木 重定、古島 康、松井 重和
- A5-4 破砕選別技術システムによる総費用変動の評価(1)
(独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人
(財)日本環境衛生センター 立尾 浩一 埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策
- A5-5 一般廃棄物処理システムにおけるBASの提案と評価結果の活用
早稲田大学 小清水 勇、中嶋 崇史、小野田 弘士、永田 勝也
- A5-6 素材産業を活用した動脈・静脈連携システムの設計と評価に関する研究
(財)日本環境衛生センター 金子 昌示、立尾 浩一 (独)国立環境研究所 大迫 政浩、河井 紘輔
- ポスター2 A5-7 循環型社会地域計画のための廃棄物管理システム構築の提案
北海道大学大学院(現:日本技術開発(株)) 浅岡 幸基
北海道大学大学院 古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- ポスター1 A5-8 大都市における今後の廃プラスチック処理政策に関する研究
東北大学大学院 戸敷 浩介、劉 庭秀
- A5-9 最終処分場の有機物負荷低減のための一般廃棄物管理システムの提案
北海道大学大学院 坪 史弥、古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- A5-10 最終処分場再生ニーズと効果のアンケート調査に基づく解析
北海道大学大学院(現:パシフィックコンサルタンツ(株)) 武田 朋子
北海道大学大学院 古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- ポスター2 A5-11 ダッカ市を構成する行政区単位で改善するダッカ市の廃棄物処理改善
八千代エンジニアリング(株) 石井 明男 DCC マクスドル・ラフマン・チュードリィ
八千代エンジニアリング(株) 斉藤 正浩 DCC アブドル・ハスナット・アシャラフル・アラム

A 6 収集運搬・輸送 【 11月21日(金) 第6会場 15:00 - 16:30 】

- A6-1 戸別収集、生ごみ分別収集に関する実態調査
(独)国立環境研究所 藤井 実、大迫 政浩 東京大学 村上 進亮
パシフィックコンサルタンツ(株) 志賀 光洋、新井 秀澄、米田 理津子
- A6-2 ステーション収集地点の形成過程とごみ搬出行動の実態
福岡大学 鈴木 慎也、立藤 綾子、松藤 康司
- A6-3 ごみの収集・運搬に係るコスト・環境負荷の評価モデルに関する不確実性分析
岡山大学大学院 松井 康弘、安榮 健
- A6-4 清掃事務所における一般廃棄物収集車の経路策定についての構造分析
京都大学 内海 秀樹
- A6-5 広域集中処理を目的とした一般廃棄物の収集・中継輸送システムの計画に関する研究
岡山大学大学院 日下部 友祐、藤原 健史、水岡 翔
- A6-6 東京圏における産業廃棄物プラスチックの静脈物流に関する一考察
首都大学東京大学院 大久保 伸、荒井 康裕、小泉 明
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 茂木 敏
(財)東京都環境整備公社 辰市 祐久 東京都環境局 中浦 久雄

A 7 LCA・産業連関分析 【 11月20日(木) 第2会場 11:00 - 12:15 】

- A7-1 青果物流通のLCI 通い容器と段ボール箱の比較
京都府立大学大学院 梶川 崇、山川 肇
- A7-2 東北地域の産業構造からみる廃棄物排出とリサイクル
東北大学 矢吹 悟、松八重(横山) 一代、長坂 徹也
- ポスター2 A7-3 不法投棄を考慮した廃棄物産業連関分析モデル
東京国際大学 筑井 麻紀子
- A7-4 道府県リサイクル認定製品を対象とした環境負荷評価
富山県環境科学センター 佐伯 孝
(株)エックス都市研究所 山口 直久 (独)国立環境研究所 大迫 政浩
- A7-5 広域灰溶融処理システムにおける環境負荷・経済性評価
早稲田大学 小沢 俊明、小清水 勇、中嶋 崇史、小野田 弘士、永田 勝也
- A7-6 豊島廃棄物処理事業における環境性の評価
早稲田大学大学院 永田 勝也 早稲田大学環境総合研究センター 小野田 弘士
早稲田大学大学院 切川 卓也 早稲田大学環境総合研究センター 永井 祐二
早稲田大学大学院 西郷 諭、西宮 徳一、下村 健太

A 8 安全対策 / 廃棄物行政

【 11月20日(木) 第2会場 9:30 - 10:45 】

- A8-1 廃棄物処理・リサイクルシステムにおける安全対応策に関する研究(施設Aの運転引継ノートの記載事項の分析とその活用方法の検討)
早稲田大学大学院 永田 勝也 早稲田大学環境総合研究センター 小野田 弘士
早稲田大学大学院 切川 卓也、村岡 元司、伊原 克将、村田 寿見雄 早稲田大学 嶋野 智貴
- ポスター-1 A8-2 廃棄物処理・リサイクル関連施設における目標値管理システムの構築に関する検討
早稲田大学大学院 永田 勝也 早稲田大学環境総合研究センター 小野田 弘士
早稲田大学大学院 切川 卓也、村岡 元司、伊原 克将
- A8-3 堆積廃棄物の蓄熱発火危険性評価に関する研究(2)
神奈川県産業技術センター、東京大学大学院 清水 芳忠
神奈川県産業技術センター 内田 剛史 東京大学環境安全研究センター 新井 充
- A8-4 大正・昭和初期東京における再生資源回収業に関する一考察 都市化と工業化の影響を中心に
慶應義塾大学大学院 星野 高德
- A8-5 市町村の一般廃棄物処理状況に影響する要因と改善方策の提示に関する研究
環境省 上田 健二 (株)ブレック研究所 白井 信雄 近畿大学 坂田 裕輔
- A8-6 廃棄物の適正処理と安全管理計画 その2 -リチウム電池の廃棄危険性と対策-
(財)東京都環境整備公社 橋本 治 日本大学 三橋 博巳 消防大学校消防研究センター 古積 博

A 9 地域循環 / 越境移動

【 11月21日(金) 第2会場 9:30 - 11:15 】

- ポスター-2 A9-1 ミャンマーにおける地域バイオマスからのエネルギー回収の可能性評価
日本工業大学 ユ・ヤ、佐藤 茂夫
- ポスター-2 A9-2 日本における稼働中のメタン発酵処理施設のL C - C O₂評価とそれらの高度化に関する検討
創価大学 福嶋 和代、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹
- ポスター-1 A9-3 木質バイオマスの事業採算性検討
(株)建設技術研究所 岡田 敬志、江副 拓良、伊藤 明
- A9-4 地域資源再使用の有効性に関する研究-台湾離島地域の民家から取り外された古材の再使用の実態調査について
成功大学 曾 健洲 東京大学 清家 剛 成功大学 傅 朝卿
- A9-5 環境配慮工業団地と都市特性との関連検討
(株)九州テクノリサーチ 佐藤 明史、池隅 達也 北九州市立大学 松永 裕己、松本 亨
- A9-6 日中再生資源貿易と日本のリサイクル産業
上智大学 山崎 雅人
- A9-7 東アジア地区の石炭灰のキャラクタリゼーション
(財)石炭エネルギーセンター 田野崎 隆雄、渡辺 芳史 電源開発(株) 石川 嘉崇
華南理工大学 林 錦眉、余 其俊 重慶大学 錢 覚時
- A9-8 ベトナム・ハノイにおける家庭系廃棄物及び有価物の物理組成
(独)国立環境研究所 河井 紘輔 (株)松井三郎環境設計事務所 松井 三郎
(独)国立環境研究所 大迫 政浩
- A9-9 水銀廃棄物の越境移動からみた水銀処理の現状
国立水俣病総合研究センター 本多 俊一
- A9-10 民生用人工素材ゴミの海浜漂着挙動
鳥取大学大学院 岡野 多門、池田 圭吾、築田 哲也、安東 重樹、安本 幹

B 1 容器包装リサイクル

【 11月20日(木) 第6会場 9:30 - 10:45 】

- B1-1 使用済みペットボトルの独自処理に関するアンケート調査
京都大学 栗田 郁真
- B1-2 容りその他プラ相当廃プラの乾式選別装置を用いたR P F用原料の開発
(社)プラスチック処理促進協会 山脇 隆、尾崎 吉美
新第一塩ビ(株) 大和 多実男 信越化学工業(株) 馬場 誠
- B1-3 L C Aによるプラスチック製容器包装の材料リサイクル可能性調査
(社)プラスチック処理促進協会 中橋 順一、尾崎 吉美
- B1-4 プラスチック製容器包装廃棄物の単一樹脂材料リサイクルを利用したカスケードリサイクルの有無が環境負荷に与える影響
東京大学大学院 奥野 亜佐子 東京大学環境安全研究センター 山本 和夫、中島 典之
- B1-5 廃プラスチックのリサイクル施設における化学物質の挙動
(独)国立環境研究所 渡部 真文、野馬 幸生、森口 祐一

B 2 耐久消費財・廃プラスチックのリサイクル

【 11月21日(金) 第3会場 9:30 - 11:30 】

- B2-1 環境配慮設計の定量評価手法の開発
早稲田大学 壺内 良太、兼子 洋幸、渡辺 謙一、永田 勝也、小野田 弘士

- ポスター2 B2-2 建設廃棄物破碎選別残渣の風力選別による品質向上(第2報)
埼玉県環境科学国際センター 渡辺 洋一、川崎 幹生、小野 雄策
- ポスター2 B2-3 建設混合廃棄物の搬入性状と破碎選別残渣の資源利用可能性評価
埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策、川崎 幹生、渡辺 洋一
(独)国立環境研究所 朝倉 宏、山田 正人
- B2-4 建設廃材の生コンスラッジの有効利用に関する研究
日本工業大学 貫井 光男 クマコン熊谷(株) 川島 靖 西堀タイル工業 西堀 英治
- ポスター1 B2-5 塩ビ壁紙廃材から得られる炭化物のアンモニア等の吸着特性について
(株)クレハ環境 福田 弘之、穴野 順、宝妻 博、瀬尾 郁夫、安藤 暁宏
- ポスター2 B2-6 塩ビ壁紙廃材から得られる炭化物の物性
(株)クレハ環境 福田 弘之、瀬尾 郁夫、安藤 暁宏、佐々木 千聡、宝妻 博
- B2-7 FRP の亜臨界水分分解技術の実用化開発 (2)
松下電工(株) 矢野 宏、真継 伸、宮崎 敏博
- B2-8 PVC と PET を含む廃プラ油化リサイクルの最近の運用課題
札幌プラスチックリサイクル(株) 福島 正明、伊藤 清一郎、塩谷 操、若井 慶治
(株)東芝 伊部 英紀
- B2-9 廃 PET ボトルのマテリアルリサイクルに関する検討
日本大学 岩崎 晋久、角田 雄亮、菅野 元行、平野 勝巳、真下 清
- ポスター2 B2-10 仙台市におけるプラスチック製容器包装リサイクルの実態分析
東北大学大学院 寺島 三和、劉 庭秀
- ポスター1 B2-11 東アジア地域における自動車リサイクルシステムの構築可能性 - 日中韓における ELV 処理状況を中心に
東北大学大学院 車 佳、劉 庭秀、大村 道明
(株)ヨシムラみやぎ自動車リサイクルセンター 吉村 慶一
- ポスター2 B2-12 自動車リサイクル制度におけるモニタリングのあり方とその実効性-日韓比較を中心に-
東北大学大学院 劉 庭秀、大村 道明、車 佳
(株)ヨシムラみやぎ自動車リサイクルセンター 吉村 慶一
- B2-13 自動車リサイクル部品の利用促進のための環境貢献ポイントシステムの開発
早稲田大学 永田 勝也、小野田 弘士、切川 卓也、根岸 貴紀、大川 慶太、鈴木 一輝
- B2-14 電子基板に含まれる臭素系難燃剤の迅速抽出法の開発
千葉大学大学院 赤石 直也、劉 宇峰、足立 眞理子、中込 秀樹 (独)産業技術総合研究所 加茂 徹
- B2-15 臭素系難燃剤の熱分解と重金属酸化物の臭素化反応
東北大学多元物質科学研究所 柴田 悦郎、オレシェクドラク・シルビア、
グラブダ・マリウシュ、ジーマン・ミハウ、中村 崇

B 3 食品廃棄物・生ごみの資源化 【 11月21日(金) 第2会場 15:00 - 16:30 】

- B3-1 食品廃棄物の発生抑制に係る効果判定指標の検討
環境省 中野 哲哉、松澤 裕
- ポスター2 B3-2 ディスポーザ破碎生ごみの粒径組成とメタン発酵特性
(株)フジタ 吉田 耕治、久保田 洋、矢島 聡 (株)サトミ製作所 里見 仁
- B3-3 メタン発酵における超高温可溶化処理の有効性評価手法
(株)大林組 溝田 陽子、千野 裕之、四本 瑞世、大島 義徳、山本 縁
- ポスター1 B3-4 UASB 法による生ごみ可溶化液のメタン発酵処理
創価大学 米本 光治、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹
- ポスター2 B3-5 アンケート調査に基づく中小市町村における生ごみ堆肥化導入効果の検討
北海道大学大学院 森山 伸介、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- B3-6 生ごみを基質として用いた嫌気性消化プロセスにおける初期種汚泥濃度の影響
創価大学 田島 伸明、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹
- B3-7 高温コンポスト化における油分の分解と悪臭低減効果
静岡大学 中崎 清彦、佐々木 雅浩、松村 英功、徳納 佑樹
- B3-8 米ぬかの水熱処理による機能性物質抽出・燃料原料製造
日本大学 塩津 路雄、後藤 悠太、加藤 晴美、山崎 哲央、菅野 元行
ガラスリソーシング(株) 小松 明博 日本大学 角田 雄亮、平野 勝巳、真下 清
- B3-9 大都市圏における食品廃棄物のバイオガス化施設の建設のための費用便益分析
北海道大学大学院 五島 典英、古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- ポスター2 B3-10 ハノイ市の分別収集普及のための住民への合意形成
八千代エンジニアリング(株) 山内 尚 URENCO グエン・バン・ホア
八千代エンジニアリング(株) 松原 ひろみ URENCO ファムバン・ドク

B 4 下水汚泥・無機性廃棄物の資源化 【 11月21日(金) 第1会場 13:00 - 14:30 】

- ポスター1 B4-1 ガスクロマトグラフィーを応用した下水汚泥炭化材上の VOCs 吸着特性評価
群馬県立群馬産業技術センター 小松 秀和、鈴木 崇
広島工業大学 新田 昌弘 群馬県県土整備部 村田 知宏、成澤 篤史

- B4-2 液化ジメチルエーテルを用いた下水汚泥の水分抽出特性に関する考察
月島機械(株) 森田 真由美 (財)電力中央研究所 神田 英輝
月島機械(株) 竹上 敬三 (財)電力中央研究所 牧野 尚夫
- B4-3 各種可溶化方法における下水濃縮余剰汚泥の可溶化効果
富士電機アドバンステクノロジー(株) 木村 総一郎、富内 芳昌、清水 康次
メタウォーター(株) 石川 冬比古
- ポスター2 B4-4 リン酸鉄含有汚泥の資源化
四日市大学 高橋 正昭 シャープ(株) 深谷 百合子
- B4-5 下水汚泥のバイオソリッド燃料化
日立造船(株) 三野 禎男、國木 政徳、北野 徳之
- ポスター2 B4-6 浄水発生土とカキ殻および廃ガラスを原料とするカドミウムイオン吸着剤の水熱合成
兵庫県立大学大学院 荻野 芳菜 兵庫県立大学 日下部 香里
兵庫県立大学大学院 黒石 佳和、西岡 洋、村松 康司、矢澤 哲夫
- ポスター1 B4-7 浄水汚泥を原材料とした環境浄化材料の開発
三重県保健環境研究所 吉岡 理、市岡 高男、塚田 進
- ポスター2 B4-8 担体充填型高速メタン発酵による下水汚泥からのエネルギー回収技術の開発
メタウォーター(株) 佐々木 康成、森 豊
富士電機アドバンステクノロジー(株) 富内 芳昌、丸山 茂、清水 康次
日本下水道事業団 水田 健太郎
- B4-9 無機系凝集剤を用いた水質浄化の基礎研究
長崎総合科学大学 竹本 直道 長崎大学 甲斐 穂高 長崎総合科学大学 石橋 康弘
- ポスター2 B4-10 石炭灰の安全安心な再生資源化を目指した酸洗浄処理技術の開発
相馬環境サービス(株) 熊谷 祐一、管野 栄
(株)大林組技術研究所 久保 博、田島 孝敏、甚野 智子
- ポスター1 B4-11 混合焼結法および水熱処理を用いたリサイクル材料の吸着性評価
東海大学 小林 陵平、駒木根 直子、佐々木 雅美
- B4-12 鉄鋳物廃棄物から得られた吸着材の性状と利用
名城大学 藤田 晃弘 (有)イー・エス・テクノ 中島 佳郎 山口コンサルタント 山口 晃生
- B4-13 過熱水蒸気を用いたマグネシウム切削粉のリサイクル
北九州市立大学 大矢 仁史 (独)産業技術総合研究所 古屋仲 茂樹、小林 幹男
(株)タナベ 木村 正人、吉田 一雅

B 5 有機性廃棄物の資源化(1) 【 11月21日(金) 第6会場 9:30-11:30 】

- B5-1 初穀由来シリカとマグネシウムとの固相反応挙動解析
大阪大学 梅田 純子、近藤 勝義
- B5-2 初穀からの吸着材製造
横浜国立大学大学院 水戸 賢吾、奥谷 猛 JAXA 佐藤 直樹、立原 悟、小口 美津夫、大西 充
- B5-3 繊維廃棄物の活性炭シートへの再生技術
豊橋技術科学大学 角田 範義、堤 和男 愛知県産業技術研究所三河繊維技術センター 島上 祐樹
- B5-4 イカ内臓を用いた養魚用機能性飼料の開発
北海道立工業試験場 若杉 郷臣、富田 恵一、高橋 徹、長野 伸泰、作田 庸一
北海道立釧路水産試験場 信太 茂春、佐藤 暁之、金子 博実、辻 浩司
北海道立栽培水産試験場 佐藤 敦一、高谷 義幸 東京海洋大学 竹内 俊郎、佐藤 秀一
- B5-5 BDF 副生成物の原位置バイオ浄化用栄養材としての適用性
(株)大林組 緒方 浩基、四本 瑞世、佐藤 祐司、久保 博
- ポスター2 B5-6 高電界を利用した潤滑油リサイクル技術開発
群馬県立群馬産業技術センター 鈴木 崇
シンコー技研(株) パニダ・プライッタオング、赤石 江位子、石栗 幸博
群馬大学 田尻 栄一、瀧上 昭治
- ポスター2 B5-7 ビーズミルを用いた微細藻類の破碎とそれを用いたメタン発酵処理に関する研究
創価大学 山田 夢人、長尾 宣夫 清水建設(株) 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹
- B5-8 メタン発酵消化液の液肥利用のための政策的支援について
長崎大学 遠藤 はる奈、中村 修
- B5-9 和歌山県における果樹栽培によるバイオマス資源の推計と利活用について
和歌山大学大学院 榎本 純子 和歌山大学 金子 泰純
- B5-10 フッ素電解処理装置の実用化に向けた効率的運転に関する研究
日本大学大学院 吉見 崇、大木 宜章 ジェコス(株) 大松澤 季宏
日本大学大学院 高梨 裕次

B 6 有機性廃棄物の資源化(2) 【 11月21日(金) 第2会場 13:00 - 14:45 】

- B6-1 廃木材利用システムのシナリオ比較
京都大学環境保全センター 矢野 順也 (株)アーシン 出口 晋吾
京都大学環境保全センター 平井 康宏、酒井 伸一
- B6-2 強制通気型堆肥化施設ら発生する豚ふん起源の環境負荷ガス(NH₃、N₂O および CH₄)の定量測定と変動
(独)農研機構 畜産草地研究所 長田 隆
(独)農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター 原田 泰弘、皆川 啓子
- ポスター1 B6-3 家畜ふん焼却灰からのリン回収物の鉛除去特性
宮崎大学 土手 裕、関戸 知雄
- B6-4 古紙への無電解ニッケルめっきの試み
東京都立産業技術研究センター 竹村 昌太、上野 武司、高松 聡裕、五十嵐 美穂子、
棚木 敏幸、島田 勝広 東京農工大 岡山 隆之
- ポスター2 B6-5 樹脂含浸段ボールの炭化処理
名古屋市工業研究所 山口 浩一
- B6-6 コンポスト化反応における細菌相遷移の把握と植種効果の評価
山梨大学 落合 知、金子 栄廣、田中 靖浩
- B6-7 培養法と非培養法による好気固相反応型生ごみ処理機における微生物の解析
創価大学 渡邊 啓子、長尾 宣夫、戸田 龍樹、黒沢 則夫
- B6-8 コンポスト中での基質および生分解性プラスチックの分解速度
山梨大学 金子 栄廣 新城市役所 中嶋 慶奈
- B6-9 土壌中における生分解性プラスチックの分解特性
静岡大学 中崎 清彦、安部 道玄、小林 弘二、大坪 悠登

B 7 バイオガス化 【 11月20日(木) 第4会場 11:30 - 12:30 】

- ポスター2 B7-1 グリストラップ浮遊油脂のメタン発酵処理
日本工業大学大学院 小島 直之 日本工業大学 佐藤 茂夫
- B7-2 紙ゴミ等の乾式メタン発酵に関する試験
(株)大林組 千野 裕之、下山 真人、溝田 陽子
- B7-3 生ごみを用いた嫌気処理プロセスにおける基質粒子径の影響
創価大学 泉 光一、沖汐 勇樹、長尾 宣夫 清水建設 丹羽 千明 創価大学 戸田 龍樹
- B7-4 二段階メタン発酵システムの酸生成槽における分離菌の増殖能力および代謝能力の比較検討
日本大学大学院 木科 大介 日本大学 大木 宜章 日本大学大学院 源 佳子
日本大学 小森谷 友絵
- B7-5 「先進型高効率乾式メタン発酵システム実験事業」(第2報) 実験事業の概要及び実験システムの運転状況
穂高広域施設組合 二條 久男 (株)東洋設計 西嶋 真幸、深澤 愛

B 8 水素発酵/バイオマス発電 【 11月21日(金) 第1会場 15:00 - 16:00 】

- B8-1 「日田市バイオマス資源化センター」の運転実績と微生物群集解析
(株)神鋼環境ソリューション 川嶋 淳、山下 哲生、宇良 伸之、赤司 昭、斉藤 彰
- B8-2 木質系バイオマスを基質とする水素発酵の検討
神奈川県環境科学センター 渡邊 久典
- B8-3 水素・メタン二段発酵による食品廃棄物からのエネルギー回収技術の開発
福島大学、(独)国立環境研究所 稲森 悠平 (独)国立環境研究所 李 東烈、徐 開欽、虻江 美孝
上海交通大学 Chu Chun Feng
- B8-4 多様なバイオマスからの水素生成に資する植種源の獲得に向けた反復培養方法の検討
龍谷大学 中村 拓郎、山本 陽介 大阪大学 澤村 啓美、池 道彦 龍谷大学 石垣 智基
- ポスター1 B8-5 バイオマス系廃棄物からの乾式水素発酵の検討とCO₂・エネルギー評価
龍谷大学 山本 陽介、中村 拓郎 大阪大学 澤村 啓美 龍谷大学 石垣 智基

B 9 バイオディーゼル・エタノール化 【 11月20日(木) 第4会場 9:30 - 11:15 】

- B9-1 廃食用油を原料としたバイオディーゼル燃料製造・利用システムの現状分析
北海道大学 橋本 翔伍、古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- B9-2 バイオディーゼル燃料製造における遊離脂肪酸処理の検討
日本大学 伊藤 拓哉、堀江 玲子、角田 雄亮、菅野 元行、平野 勝巳、真下 清
- ポスター2 B9-3 液化ジメチルエーテルによる均一相系BDF超高速合成法の開発
(独)国立環境研究所 倉持 秀敏、大迫 政浩 兵庫県立大学 前田 光治
京都市、京都高度技術研究所 中村 一夫 京都大学 酒井 伸一
- B9-4 バイオディーゼル廃棄物(グリセリン)からのポリ乳酸製造技術の開発
日立造船(株) 岸田 央範 東北電力(株) 守谷 武彦 東北大学 木下 睦

- B9-5 担持ニッケル触媒によるグリセリンからの水素製造の試み
群馬県立群馬産業技術センター 鈴木 崇 桐生ガス(株) 村上 恵理、木村 光
群馬大学 瀧上 昭治
- B9-6 固定化酵母を用いた柑橘類表皮からのバイオエタノール生産
(独)産業技術総合研究所 滝村 修、井上 宏之、村上 克治、澤山 茂樹
- B9-7 サトウキビの糖化技術開発を目的とした各部位の糖化特性に関する研究
(独)農研機構 食品総合研究所 荒金 光弘、池 正和、城間 力
- B9-8 おがくずを利用したバイオエタノール製造に関する研究
(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター 寺島 義文 (独)農研機構 食品総合研究所 徳安 健
秋田県産業技術総合研究センター 遠田 幸生 秋田県立大学 伊藤 新、高橋 武彦、小林 淳一

C 1 焼却・溶融処理技術 【 11月19日(水) 第3会場 13:00 - 14:45 】

- C1-1 低LCC型ストーカ炉・炉内排ガス再循環システムの開発
三菱重工環境エンジニアリング(株) 常泉 慎也 三菱重工業(株) 田熊 昌夫
三菱重工環境エンジニアリング(株) 滝川 靖史、柳澤 良夫、倉西 実
- C1-2 次世代ストーカ炉における長期運転
日立造船(株) 富山 茂男、古林 通孝、近藤 守、小林 幸司
- ポスター1 C1-3 輻射熱を利用した医療廃棄物専焼炉の開発
長崎総合科学大学大学院 豊田 真治 長崎大学大学院 甲斐 穂高
長崎総合科学大学大学院 中道 隆広 (有)環境産業 川口 聡
長崎大学大学院 武政 剛弘 長崎総合科学大学大学院 石橋 康弘
- C1-4 エコパーナ式灰溶融炉における高融点物質の除去方法
日立造船(株) 勝木 誠、古林 通孝、下谷 英雄、多賀 幸司、浅野 実
- ポスター2 C1-5 微粉炭吹込みによる溶融炉での輝炎輻射効果の増大に関する研究
(株)クボタ 釜田 陽介、竇正 史樹、黒石 智、佐藤 淳、上林 史朗、阿部 清一
三重県環境保全事業団 黒木 清篤
- C1-6 資源循環型社会実現に向けた溶融処理技術の開発
(株)クボタ 竇正 史樹、黒石 智、後藤 謙治、仲井 文彦
- C1-7 焼却灰の溶融処理性に及ぼすH₂OおよびCO₂の影響
(株)クボタ 倉田 雅人、釜田 陽介、佐藤 淳、上林 史朗、阿部 清一
- C1-8 灰溶融炉におけるメタルレベル測定
(株)タクマ 大上 雅晴、加藤 考太郎
- C1-9 溶融スラグ作成条件がスラグからのPb溶出特性に及ぼす影響について
京都大学大学院 滝本 陽一、高岡 昌輝、大下 和徹、塩田 憲司、森澤 眞輔

C 2 熱分解・ガス化 【 11月19日(水) 第3会場 15:00 - 16:45 】

- ポスター1 C2-1 廃木材と廃プラスチックの混合燃料の熱分解挙動の解析
中部大学 水野 貴裕、中島 江梨香、行本 正雄
- ポスター2 C2-2 木質系廃棄バイオマスにおける高速内熱式炭化処理プロセスに関する基礎研究
埼玉大学大学院 王 青躍、アパル・パタル、タリブ・トオフテイ、黒川 秀樹
(独)国立環境研究所 中島 大介 八戸工業高等専門学校 杉山 和夫
- C2-3 流動床式ガス化溶融炉での燃料使用量低減
(株)神鋼環境ソリューション 皆川 公司、岩本 益幸、細田 博之、田頭 成能
- C2-4 流動床式ガス化溶融炉の長期連続運転
(株)神鋼環境ソリューション 細田 博之、黒瀬 卓治、伊藤 正、荒川 康明
- C2-5 廃棄物ガス化-改質用ニッケル系触媒の再生特性
(独)国立環境研究所 小林 潤、川本 克也
- C2-6 CaOを併用した廃棄物ガス化-改質プロセスにおける改質反応特性
(独)国立環境研究所 川本 克也、小林 潤 日立造船(株) 福島 龍太郎、田中 新吾
- C2-7 メタン発酵ガスの自己熱改質反応におけるハニカム触媒の耐久性評価
日立造船(株) 荒木 貞夫、日数谷 進、日野 なおえ、家山 一夫
- C2-8 水素添加触媒を用いた改質ガス中の炭化水素類の低減
(独)国立環境研究所 井上 研一郎、川本 克也
- C2-9 熱分解ターモデル物質の水素化反応生成物及び原料混合効果
千葉大学 佐島 慧 (独)産業技術総合研究所 安田 肇、加茂 徹 千葉大学 中込 秀樹

C 3 焼却排ガス処理 【 11月21日(金) 第5会場 15:00 - 16:30 】

- C3-1 湿式ガス洗浄塔の数値解析
日立造船(株) 古林 通孝、白石 裕司、嶋崎 伸吾
- C3-2 無触媒脱硝の性能向上
日立造船(株) 古林 通孝、白石 裕司、嶋崎 伸吾

- C3-3 無触媒脱硝法+BF方式における塩化アンモニウム生成・除去に関する研究
(独)国立環境研究所 黄仁姫 北海道大学 美濃谷 広、松藤 敏彦、松尾 孝之
(株)タクマ 松本 暁洋
- C3-4 無触媒脱硝システムの最適化
(株)タクマ 松本 暁洋、鈴木 智子 大阪市環境局 長谷川 直人、金子 正利、天尾 正夫
京都大学大学院 大下 和徹、高岡 昌輝
- C3-5 流動床式ガス化溶融炉のナトリウム系薬剤による乾式排ガス処理
(株)神鋼環境ソリューション 松村 卓也、藤田 淳、青木 勇、細田 博之、伊藤 正
神鋼環境メンテナンス(株) 香島 豊
- C3-6 マグネシウム-アルミニウム酸化物を用いた塩酸排ガスの処理
東北大学大学院 内山 直哉、亀田 知人、グラウゼ・ギド、吉岡 敏明
- ポスター1 C3-7 COD自動計測のための硝酸銀自動添加装置
(株)クレハ環境 小林 正喜、小林 茂樹、門馬 達也
- ポスター2 C3-8 産業廃棄物焼却施設における1,4-ジオキサン排出量調査
(株)クレハ環境 堀口 司、大岡 幸裕、小倉 伸夫、飯高 陽介

C 4 排ガス中重金属類・未規制物質 【11月20日(木) 第3会場 9:30-10:45】

- ポスター1 C4-1 臭素系難燃剤含有プラスチックの焼却処理による有機臭素化合物の排出傾向
横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター 三宅 祐一
横浜国立大学大学院 菅野 聡、亀屋 隆志 横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター 小林 剛
- ポスター2 C4-2 一般廃棄物焼却施設における低揮発性有機塩素のオンライン測定について
電源開発(株) 名久井 博之、小山 博紀 大阪市立環境科学研究所 高倉 晃人
- C4-3 模擬飛灰での芳香族塩素化合物生成における重金属塩化物の相互作用
京都大学 谷野 佑太、藤森 崇、高岡 昌輝、大下 和徹、森澤 眞輔
- C4-4 尿素による焼却飛灰上でのダイオキシン類再合成抑制機構の解明
中外炉工業(株) 服部 成真 京都大学 高岡 昌輝、松本 忠生、大下 和徹、森澤 眞輔
- C4-5 飛灰加熱時の排ガス中クロロベンゼン類のリアルタイム変化
京都大学 藤森 崇、高岡 昌輝、大下 和徹
日本ゼオン(株) 塩野 淳弘 立命館大学 武田 信生
- C4-6 廃棄物焼却炉からの排ガスおよび飛灰中における有機ハロゲン類濃度を活用したダイオキシン類の代替計測に関する研究
(独)国立環境研究所 安田 憲二、依田 育子、川本 克也
- C4-7 日本国内での水銀排出インベントリーと経時変化
九州大学 高橋 史武 (独)国立環境研究所 貴田 晶子、安田 憲二 九州大学 島岡 隆行
- ポスター1 C4-8 排ガス中フッ素、ホウ素、水銀の処理過程での挙動について
大阪市立環境科学研究所 高倉 晃人、西尾 孝之、西谷 隆司、山本 攻

C 5 焼却灰の特性・安定化処理 【11月21日(金) 第5会場 9:30-11:30】

- C5-1 石炭中のフッ素のフライアッシュへの分配を支配する要因の検討
東北大学 坪内 直人、林 英和 宇都宮大学 佐藤 正秀、鈴木 昇 東北大学 大塚 康夫
- ポスター2 C5-2 都市ごみ焼却灰中の元素組成・結晶組成の月間変動
明治大学 大淵 敦司、中村 利廣
- ポスター1 C5-3 都市ごみ焼却灰中の放射性核種
明治大学 岩鼻 雄基、大淵 敦司、栗原 雄一、高橋 賢臣 (財)核物質管理センター 永井 幸太
東京大学RIセンター 小池 裕也 明治大学 北野 大、佐藤 純、中村 利廣
- C5-4 蛍光X線法による下水処理汚泥焼却灰の分析
明治大学 大淵 敦司、坂本 純一、中村 利廣
- ポスター2 C5-5 都市ごみ焼却飛灰の粒度別分析
明治大学 平等 幸太、大淵 敦司、中村 利廣
- ポスター1 C5-6 多硫化物重金属固定化薬剤による鉛溶出抑制の長期安定性について
大阪工業大学 孫 軼斐、渡辺 信久、石川 宗孝
- C5-7 多硫化物薬剤の焼却灰重金属固定化剤としての応用
大阪工業大学 渡辺 信久、孫 軼斐、石川 宗孝
- ポスター2 C5-8 飛灰のキレート処理に伴う二硫化炭素の発生に関する検討
大阪市立大学 水谷 聡、高橋 真司、貫上 佳則
- C5-9 熱処理過程における焼却灰中クロムの形態変化速度に関する検討
京都大学大学院 小笠原 奨悟、高岡 昌輝、大下 和徹、塩田 憲司、森澤 眞輔
- C5-10 都市ごみ焼却灰のエイジングにおける6価クロム、ホウ素、フッ素の挙動
京都大学 惣附 博朗、高岡 昌輝、大下 和徹、森澤 眞輔
- C5-11 木質系バイオマス燃焼灰の安全性評価および有効利用
北海道立工業試験場 高橋 徹、富田 恵一、若杉 郷臣
北海道立林産試験場 山田 敦、折橋 健 九州大学北海道演習林 古賀 信也

- C5-12 都市ごみ焼却灰と各種産業廃棄物を原料としたコンクリートの開発
鹿児島工業高等専門学校 前野 祐二
- C5-13 都市ごみ焼却灰および飛灰混合試料のセメント原料化における阻害物質低減化に関する研究
九州大学 森田 飛鳥、江藤 次郎、島岡 隆行
- ポスター1 C5-14 都市ごみ焼却灰の再資源化を目指した水熱処理条件の検討
九州大学 久良木 暢、江藤 次郎、島岡 隆行

C 6 焼却・溶融飛灰 / 溶融スラグ 【 11月21日(金) 第5会場 13:00 - 14:45 】

- C6-1 溶融スラグからの鉛溶出挙動に及ぼす未燃炭素の影響
(株)クボタ 釜田 陽介、倉田 雅人、佐藤 淳、上林 史朗、阿部 清一
- ポスター2 C6-2 溶融スラグからの鉛溶出挙動に及ぼすガラス構造の影響
(株)クボタ 釜田 陽介、加納 弘也、佐藤 淳、上林 史朗、阿部 清一
- C6-3 産廃模擬スラグ(Pb ガラス)中の重金属元素(Pb)の化学結合形態
千葉科学大学 安藤 生大、地下 まゆみ、上野 宏共 エコシステム千葉(株) 原 雄
ジャパン・リサイクル(株) 荒金 勝義、中野 健一
- C6-4 不法投棄物溶融処理スラグの安全性と骨材特性
岩手県工業技術センター 菅原 龍江、白藤 裕久 宮古地方振興局岩泉土木事務所 八重樫 貴宗
岩手大学 藤原 忠司、小山田 哲也
- C6-5 空冷された産廃スラグの建設材料としての利用に関する基礎的研究
宮城大学 北辻 政文 溶融スラグ石材研究会 上埜 秀明
- ポスター1 C6-6 磨砕処理による溶融スラグの品質改善効果
(株)間組 佐々木 肇 福祉商事(株) 関 勇治 日本鋳造(株) 佐藤 良雄
(株)フローリック 藤田 康彦
- C6-7 溶融スラグのアンモニウムイオン吸着剤としての有効利用に関する基礎的研究
栃木県保健環境センター 藤田 幸生 栃木県窯業技術支援センター 見目 誠造
- C6-8 都市ごみ焼却施設における高温・低温二段階集じんによる塩類と重金属類の分離捕集に関する研究
北海道大学 西本 薫 秋田県立大学 岡田 敬志 北海道大学 東條 安匡、松藤 敏彦、松尾 孝之
(株)タクマ 鮫島 良二
- ポスター2 C6-9 溶融飛灰の処理・処分と資源化の現状に関するアンケート調査
(独)国立環境研究所 肴倉 宏史 GS建設(韓国) 鄭 昌煥 (独)国立環境研究所 大迫 政浩
早稲田大学 小野田 弘士、永田 勝也
- C6-10 都市ごみ溶融飛灰を対象とした山元還元システムの評価 -TMRによる評価を含めて-
(株)エックス都市研究所 山口 直久、都築 淳 (独)国立環境研究所 大迫 正浩

D 1 埋立地しゃ水 / 被覆型処分場 【 11月21日(金) 第4会場 15:00 - 16:30 】

- D1-1 ベントナイト混合土が異なった速度で変形した場合の遮水性能比較
特定非営利活動法人最終処分場システム研究協会 宇佐見 貞彦、今泉 繁良、
工藤 賢悟、加藤 啓樹、柴田 健司
- D1-2 遮水シートの荷重解放後の歪み復帰特性
東ソー・ニッケミ(株) 近藤 三樹郎 DOWA エコシステム(株) 狩野 真吾
日本シート工業(株) 増淵 光亮 シーアイ化成(株) 渡部 直人
- D1-3 保護マットの貫入保護性能についての考察
ダイニック・ジュノ(株) 清水 昭二 DOWA エコシステム(株) 狩野 真吾
東ソー・ニッケミ(株) 近藤 三樹郎 日本シート工業(株) 増淵 光亮
シーアイ化成(株) 渡部 直人
- D1-4 表面処理を施した基礎杭打設による海面処分場の底面遮水工に与える影響
中電技術コンサルタント(株) 蔦川 徹 呉工業高等専門学校 森脇 武夫
広島県立総合技術研究所 岡本 拓 (株)日本触媒 服部 晃、岡本 功一
中電技術コンサルタント(株) 渡辺 修士、平尾 隆行
- D1-5 クローズド型処分場の安定化モデルにおける散水と埋立方法に関する研究
(株)奥村組 大塚 義一 クローズドシステム処分場開発研究会 石井 一英、花嶋 正孝、古市 徹
- ポスター1 D1-6 クローズドシステム処分場における廃棄物安定化指標の調査研究(その4)
(株)福田組 小日向 隆、小林 正利 北海道大学大学院 石井 一英
福岡大学環境保全センター 柳瀬 龍二 クローズドシステム処分場開発研究会 花嶋 正孝、古市 徹
- ポスター2 D1-7 クロ - ズドシステム処分場における被覆部の移設方法の研究
クロ - ズドシステム処分場開発研究会 大野 文良、東浦 有治、加藤 隆也、花嶋 正孝、古市 徹
- D1-8 法面キャッピングシートの摩擦に関する実験的考察
太洋興業(株) 小谷 克己、下田 宏治、吉田 和久
ダイニック・ジュノ(株) 清水 昭二、山本 寛一

D 2 埋立ガス・浸出水

【 11月19日(水) 第2会場 13:00 - 14:45 】

- D2-1 埋立地メタン放出量を推計する IPCC 一次分解モデルパラメータの現場計測法
(独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人、Komsilp Wang-Yao、朝倉 宏 龍谷大学 石垣 智基
- D2-2 埋立構造の異なる大型埋立実験槽を用いた地球温暖化ガス削減に関する研究
福岡大学 平田 修、松藤 康司、柳瀬 龍二、田中 綾子
- ポスター-1 D2-3 埋立地からのメタンおよび亜酸化窒素排出量の評価手法に関する検討
龍谷大学 古田 祐介、石垣 智基、占部 武生
(独)国立環境研究所 山田 正人、成岡 朋弘、Komsilp Wangyao
沖縄県衛生環境研究所 宮城 俊彦 福井県衛生環境研究センター 田中 宏和
埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策
- ポスター-2 D2-4 嫌気・好気切替型最終処分場の研究におけるカラム実験
(株)奥村組 大塚 義一、川口 光雄 (株)竹中土木 小嶋 平三
- D2-5 廃石膏ボードの埋立処分に伴う硫化水素の発生抑制に関する基礎研究
福岡大学 正本 博士、織田 貴雪、森田 健太郎、重松 幹二、松藤 康司、柳瀬 龍二
- D2-6 発展途上国の最終処分場における最適な埋立構造の提案に関する基礎的研究
福岡大学 米田 将基、増田 良太、平田 修、立藤 綾子、松藤 康司
- ポスター-1 D2-7 最終処分場における関東ロームの有効利用 - 浸出水における有機汚濁成分の捕捉及び重金属類吸着能の評価 -
早稲田大学 馬場 直紀、香村 一夫 埼玉県環境科学国際センター 川崎 幹生、小野 雄策
- ポスター-2 D2-8 都市ごみ破碎不燃残渣を用いたカラム実験による埋立特性に関する研究
宮崎大学 平峯 界生、関戸 知雄、土手 裕
- ポスター-1 D2-9 焼却灰からのアルカリ溶出速度に関する研究
宮崎大学 松村 真吾、土手 裕、関戸 知雄
- ポスター-2 D2-10 浸出水中のホウ素・フッ素およびRO膜処理に影響する水質マトリックスについて
(独)国立環境研究所 成岡 朋弘 秋田県立大学 阿部 誠 (独)国立環境研究所 山田 正人
- D2-11 不燃ごみ主体の埋立処分に伴う浸出水の水質特性に関する研究(2) < 解体時の重金属の層状別分布と収支 >
福岡大学 柳瀬 龍二、平田 修、松藤 康司
- D2-12 石炭フライアッシュ中の環境規制物質の希酸への溶出挙動
東北大学大学院 柏倉 俊介 (株)相馬環境サービス 熊谷 祐一 (株)大林組 久保 博
東北大学大学院 松八重 一代、長坂 徹也
- ポスター-1 D2-13 廃棄物処分場における有機化合物の環境媒体間分配
東北工業大学 内田 美穂
- D2-14 長期養生によるキレート処理溶融飛灰中重金属の化学的安定性と金属形態
(株)環境管理センター 辻本 浩子、王 寧 (独)国立環境研究所 肴倉 宏史、大迫 政浩

D 3 埋立地モニタリング

【 11月19日(水) 第2会場 15:00 - 16:45 】

- D3-1 廃棄物埋立処分場 CDM 事業におけるメタンガス量の評価精度に関する検討
日本技術開発(株) 大寺 泰輔、古田 秀雄、小坂 慎
- D3-2 不法投棄廃棄物等掘削現場におけるメタンを指標とした有害ガス簡便モニタリング手法の提案
北海道大学大学院 古市 徹、谷川 昇、石井 一英、岩崎 謙二
- ポスター-2 D3-3 最終処分場の水質監視体制構築計画の一例
(株)テクノアース 前田 正男 エコシステム千葉(株) 原 雄 早稲田大学 香村 一夫
- D3-4 産業廃棄物最終処分場における短期間降水量が浸出水水質に及ぼす影響
福井県衛生環境研究センター 田中 宏和 (独)国立環境研究所 山田 正人、遠藤 和人
福井資源化工(株) 大家 清紀、小林 克至
- D3-5 おもに焼却灰からなる最終処分場埋立層と模擬廃棄物地盤における浸出水質の時系列変化
早稲田大学 河村 陽介、杉崎 真幸、樋口 健人、望月 貴史、香村 一夫
千葉県環境研究センター 栗原 正憲
- ポスター-1 D3-6 亜熱帯・熱帯地域の埋立地における微生物生態系の特徴
大阪大学大学院 澤村 啓美 (独)国立環境研究所 山田 正人、Komsilp Wang-yao
沖縄県衛生環境研究所 宮城 俊彦 大阪大学大学院 池 道彦 龍谷大学 石垣 智基
- ポスター-2 D3-7 電気、電磁探査による最終処分場モニタリングの有効性検討
千葉県環境研究センター 栗原 正憲、大石 修、佐藤 賢司
- D3-8 最終処分場の微生物機能評価のための DNA マイクロアレイの開発に関する研究
龍谷大学 石垣 智基、石田 明希
大阪大学 井上 大介、澤村 啓美、清 和成、稲葉 正毅、池 道彦
- D3-9 管理型最終処分場の廃止基準に関する考察(5)
埼玉県環境科学国際センター 長森 正尚 (独)国立環境研究所 山田 正人
龍谷大学 石垣 智基 埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策

- ポスター1 D3-10 最終処分場を模した廃棄物地盤モデルにおける比抵抗モニタリング実験
早稲田大学 杉崎 真幸、樋口 健人、望月 貴史、河村 陽介、香村 一夫
- D3-11 環境修復における生物学的毒性評価に関する研究(第2報)
福岡大学 狩野 賢太郎、趙 銀娥、吉永 尚司、樋口 壯太郎
福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝 (有)ジェーハック 為, 田 一雄

D 4 埋立地早期安定化 【 11月21日(金) 第4会場 13:00 - 14:30 】

- D4-1 廃プラスチック類洗浄前処理による資源化と最終処分場早期安定化に関する研究
福岡大学 為, 田 一雄、趙 銀娥、樋口 壯太郎
(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝 安養大学 李 南勲
- D4-2 焼却灰の埋立管理における前処理の効果(3)
(株)フジタ 久保田 洋、矢島 聡、岡本 太郎、酒向 信一、山田 裕己
- D4-3 早期安定型埋立処分システムの開発に関する研究(第3報)
福岡大学 吉永 尚司、樋口 壯太郎 清水建設(株) 宮田 剛史
福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝 (有)ジェーハック 為, 田 一雄
- D4-4 強制的好気性工法による生活環境修復早期安定化システムの研究開発(その3)
(有)グローバル環境システム研究所 元永 優一 福岡大学大学院 樋口 壯太郎
(財)福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝 福岡大学 武下 俊宏
前田建設工業(株) 中家 祥介 (株)テノックス 上 周史 (株)テノックス九州 小屋町 法之
- ポスター2 D4-5 最終処分場の早期廃止・安定化促進に関する研究
クボタ環境サービス(株) 堀井 安雄 日本環境リサーチ(株) 内田 正信
福岡大学大学院 樋口 壯太郎、武下 俊宏 福岡県リサイクル総合研究センター 花嶋 正孝
- ポスター1 D4-6 プレミックス埋立手法における基礎実験
(株)不動テトラ 一丸 敏則、松浦 彰男、桑原 正彦
- D4-7 焼却残渣層における可溶成分の溶解に伴う孔隙形成過程に関する基礎的研究
九州大学大学院 福井 晋平、小宮 哲平、高橋 史武、島岡 隆行
- D4-8 X線CT法による焼却残渣層の孔隙構造に関する基礎的研究
九州大学 小宮 哲平、福井 晋平、島岡 隆行 熊本大学 椋木 俊文、大谷 順
- ポスター2 D4-9 埋立終了後の廃棄物最終処分場に設置された受動型ガス抜き管内の温度・埋立ガス成分調査(第2報)
室蘭工業大学 吉田 英樹 前田建設工業(株) 洞 防人

D 5 不法投棄/土壌・地下水汚染 【 11月21日(金) 第4会場 9:30 - 11:30 】

- D5-1 大規模不法投棄事案の住民参加による修復対策決定プロセスの事例分析
北海道大学大学院 板倉 彩夏、古市 徹、金 相烈、谷川 昇、石井 一英
- D5-2 不法投棄現場における場内井戸を用いた支障除去対策
埼玉県環境科学国際センター 渡辺 洋一、磯部 友護、川崎 幹生
埼玉県環境部 土田 保浩、照井 和夫 東急建設(株) 下村 達也、椿 雅俊
埼玉県環境科学国際センター 小野 雄策
- D5-3 不法投棄現場でのVOC汚染除去対策について
三重県保健環境研究所 巽 正志 三重県環境森林部 西田 憲一、沢西 芳円
三重県保健環境研究所 吉岡 理、加藤 進 三重県環境森林部 中村 研二
三重県保健環境研究所 塚田 進
- ポスター1 D5-4 揮発性有機化合物で複合汚染された不法投棄廃棄物浄化のための基礎的研究 微生物分解の嫌気 好気
切り替え効果の検討
北海道大学大学院 池田 洋、古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- ポスター2 D5-5 実不法投棄廃棄物を対象にした嫌気性バイオレメディエーションの基礎的検討
八戸工業大学 鈴木 拓也 北海道大学 古市 徹 八戸工業大学 市川 昌宏、中居 浩士
北海道大学 石井 一英、谷川 昇 八戸工業大学 福士 憲一
- ポスター1 D5-6 不法投棄廃棄物の修復工事におけるリスク低減化を目的とした強制空気注入技術2
(株)大林組 黒木 泰貴、峠 和男 北海道大学大学院 古市 徹、谷川 昇、石井 一英
- ポスター2 D5-7 無炎燃焼が疑われる堆積廃棄物の調査事例
(独)国立環境研究所 遠藤 和人、山田 正人、井上 雄三
消防大学校消防研究センター 古積 博、佐宗 祐子、内藤 浩由
(財)産業廃棄物処理事業振興財団 山脇 敦
- D5-8 廃棄物の3次元モデル化と情報化施工のシステム構築に関する研究
(株)奥村組 大塚 義一、岡崎 浩一、川口 光雄 北海道大学 石井 一英、古市 徹
- D5-9 豊島における処分地情報の有効活用による事業・地域への貢献
早稲田大学大学院 永田 勝也、小野田 弘士、切川 卓也
早稲田大学環境総合研究センター 永井 祐二、中野 健太郎
早稲田大学大学院 西宮 徳一、西郷 諭
- D5-10 産業廃棄物不法投棄現場の考古学的復元
国立歴史民俗博物館 遠部 慎

- ポスター1 D5-11 家畜ふん尿による地下水窒素汚染軽減のための流域内窒素収支モデルの開発
北海道大学大学院(現:三菱電機(株)) 香坂 絵里
北海道大学大学院 古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- D5-12 酪農場からの汚染源別窒素の負荷量の推定に基づく3次元数値シミュレーション
北海道大学大学院 新田 省吾、古市 徹、石井 一英、谷川 昇
- D5-13 汚染土壌の分級後の汚染物質分布に関する考察
富山県立大学短期大学部 立田 真文、松川 真実
- ポスター2 D5-14 埋設農薬由来の -HCH 汚染土壌の化学・生物併用による分解手法の検討
龍谷大学 井出 環菜、永田 創平、石垣 智基

E 1 アスベストの無害化処理 【 11月19日(水) 第4会場 13:00 - 14:30 】

- E1-1 過熱蒸気を用いたアスベスト無害化技術の開発
西松建設(株) 稲葉 力 大旺建設(株) 百代 淳一、高浪 哲郎、前 尚樹
戸田建設(株) 三浦 勇雄、半田 雅俊 西松建設(株) 石渡 寛之
- E1-2 シャフト炉式ガス化溶融炉実機におけるアスベストの無害化処理
新日鉄エンジニアリング(株) 長田 守弘、真名子 一隆、高宮 健
- E1-3 アスベスト廃棄物溶融固化処理における融液流動性評価法の検討
東北大学 真瀬 裕伴 最上環境化学研究所 後藤 廣 東北大学 村上 太一、葛西 栄輝
- E1-4 廃棄物焼却灰溶融炉によるアスベスト廃棄物と焼却灰の溶融処理
東北大学 葛西 栄輝 最上環境化学研究所 後藤 廣 東北大学 真瀬 裕伴、村上 太一
- E1-5 アスベスト熱処理物の透過型電子顕微鏡(TEM)による評価(2)
(独)国立環境研究所 山本 貴士、貴田 晶子、野馬 幸生、寺園 淳 京都大学 酒井 伸一
- E1-6 偏光顕微鏡を用いたバルク材のアスベスト分析
京都大学環境保全センター 山口 裕哉、本田 由治、酒井 伸一

E 2 PCB・有害廃棄物の処理 【 11月21日(金) 第3会場 15:00 - 16:15 】

- E2-1 PCBを含む水系洗浄廃液の処理に関する研究
(財)鉄道総合技術研究所 潮木 知良
- E2-2 液化ジメチルエーテルを用いたPCBs汚染底質処理の基礎検討
京都大学大学院 大下 和徹、高岡 昌輝 京都大学大学院(現:(株)東芝) 北出 真一郎
立命館大学エコテクノロジー研究センター 武田 信生
(財)電力中央研究所 神田 英輝、牧野 尚夫 京都大学大学院 松本 忠生、森澤 眞輔
- E2-3 誘導加熱を用いた低濃度PCB汚染柱上変圧器コアの無害化処理装置の開発
日立造船(株) 山本 常平、奥村 諭、佐々木 加津也、小河 謙二、家山 一夫
関西電力(株) 高瀬 哲、野水 景三、小野 善孝、今堀 秀隆
- ポスター1 E2-4 絶縁油に混入した微量PCBの除去技術
愛媛大学 枅鏡 兼児、高橋 知史、本田 克久
- ポスター2 E2-5 絶縁油中PCB分析における定量精度の高い迅速前処理法
愛媛大学 高橋 知史、澤田石 一之、本田 克久
- ポスター1 E2-6 加圧熱水を用いた残留農薬の分解処理
日本大学 花房 秀和、沼田 靖、田中 裕之
- E2-7 有機ヒ素汚染土壌等の無害化処理
日立造船(株) 原田 浩希、上田 浩三、浜野 修史、山本 常平、山崎 裕義、梅村 省三
- E2-8 高濃度ダイオキシン汚染土壌試料中のGC-HRTOFMSによる妨害物質および未知有機ハロゲン化合物の検索と定性
(株)島津テクノリサーチ 高菅 卓三、嶽盛 公昭
(財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 山本 央、東野 和雄、佐々木 裕子

E 3 有害物質/有害性試験 【 11月20日(木) 第3会場 11:00 - 12:00 】

- E3-1 間接加熱処理法によるダイオキシン類汚染底質の浄化
東京農工大学 下田 公陽、細見 正明
- E3-2 アルカリ剤添加による飛灰上でのダイオキシン類生成抑制
京都大学 藤永 泰佳、藤森 崇 (株)中外炉工業 服部 成真
京都大学 高岡 昌輝、森澤 眞輔、大下 和徹
- E3-3 耐火物の回転侵食試験により得られた水冷スラグからの6価クロムの溶出特性
龍谷大学 水原 詞治、占部 武生
- E3-4 プラスチック製品に含まれる金属類の溶出特性化試験方法の設計
神奈川県環境科学センター 坂本 広美 (独)国立環境研究所 肴倉 宏史、大迫 政浩
- ポスター2 E3-5 陸生植物に対する建設廃棄物の毒性同定評価
東京工業高等専門学校 貞国 亮司、庄司 良 (独)国立環境研究所 山田 正人、朝倉 宏
秋田県立大学 阿部 誠

- ポスター1 E3-6 建設系再生製品を対象とした試薬初期添加方式による pH 依存性試験の検討
 (独)国立環境研究所 肴倉 宏史 中外テクノス(株) 西村 貴洋
 住鋳テクノリサーチ(株) 寺嶋 和也、佐々木 公司
 中外テクノス(株) 鎗田 功 (独)国立環境研究所 大迫 政浩
- ポスター2 E3-7 再生製品の環境安全評価試験データの蓄積
 明星大学 宮脇 健太郎 (独)国立環境研究所 肴倉 宏史、大迫 政浩

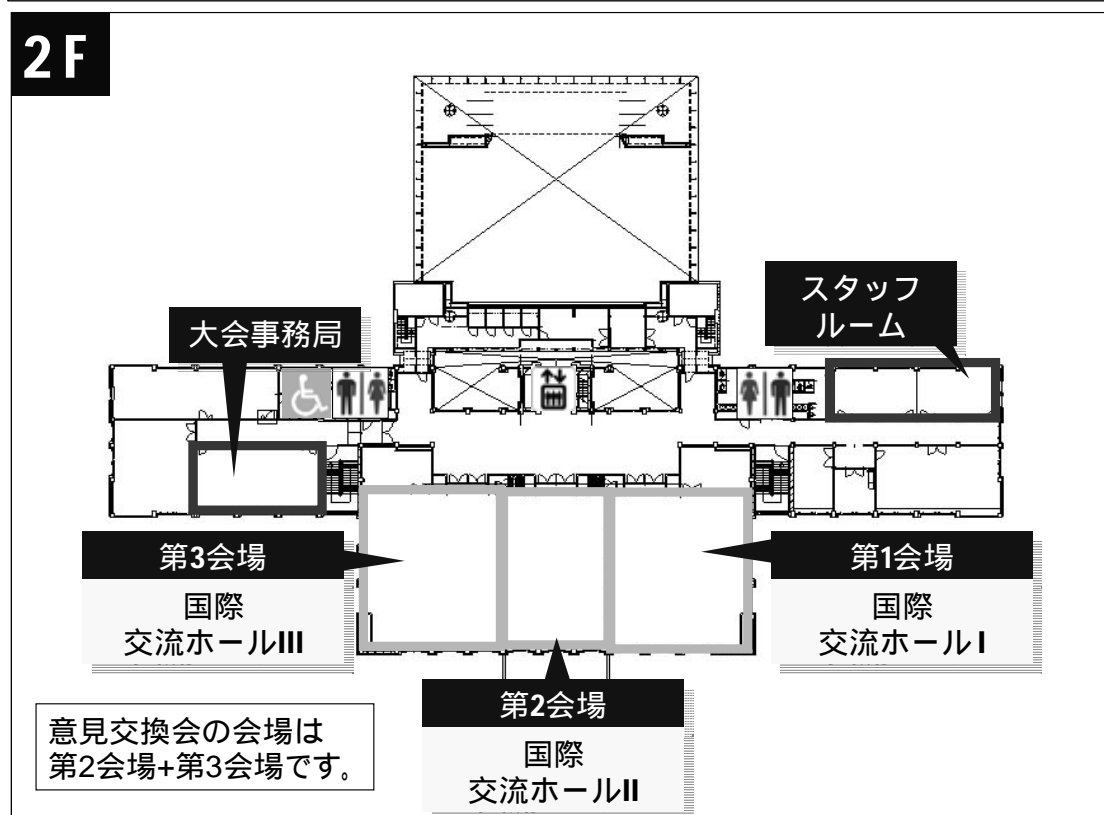
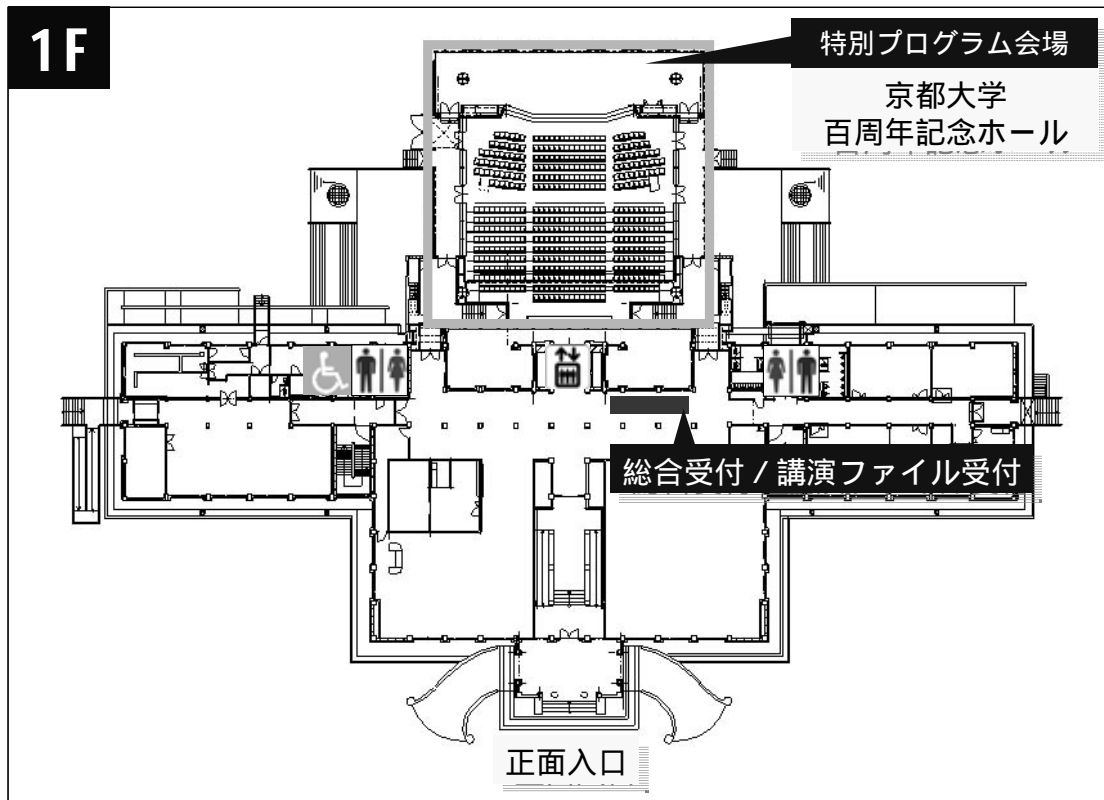
F International Poster Session

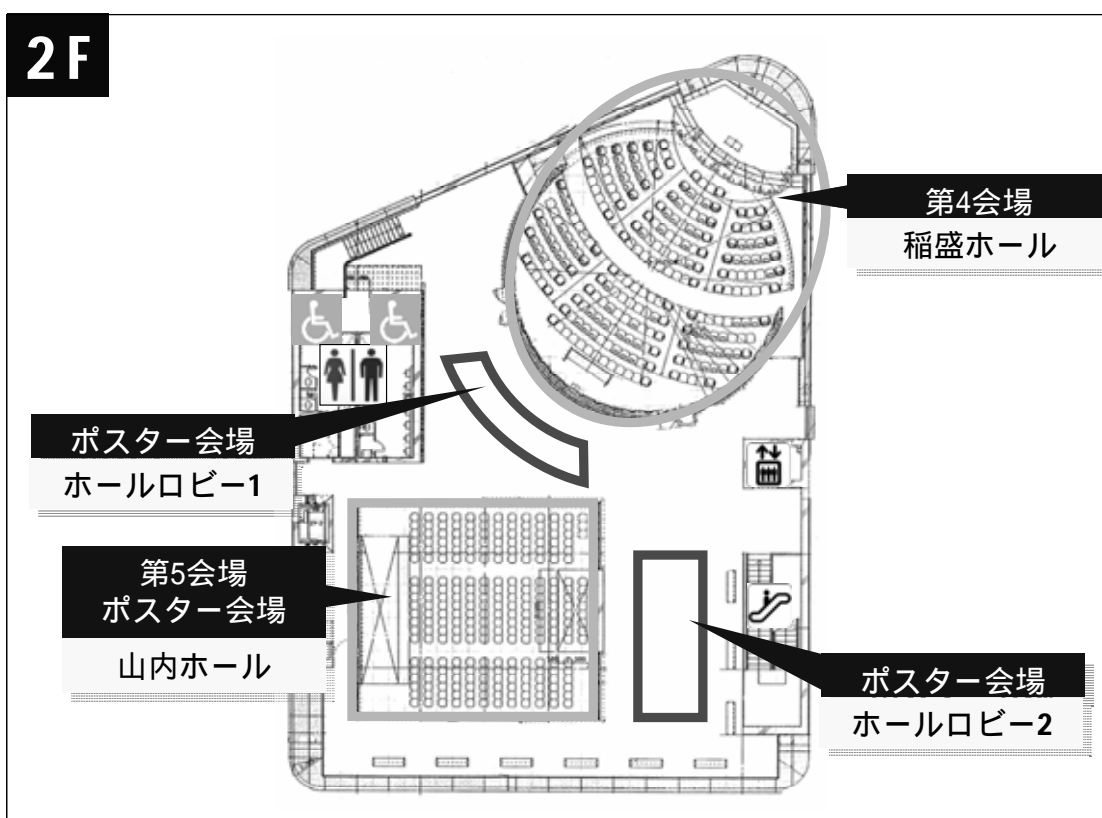
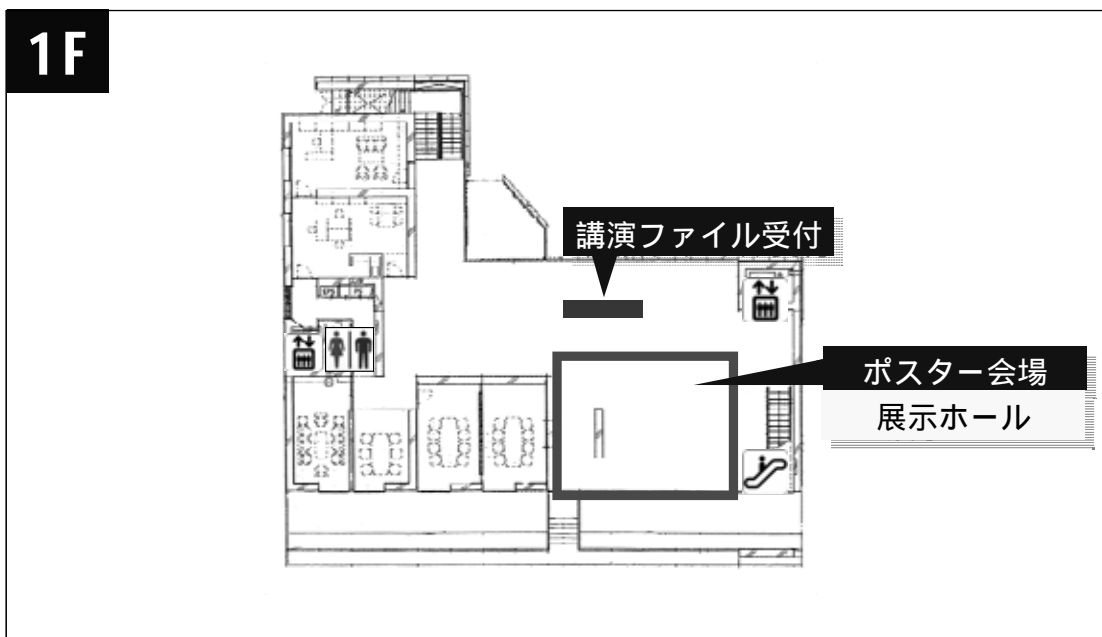
【 11月19日(水) 芝欄会館ロビーおよび第5会場 17:10 - 18:30 】

- Poster 1 FA-1 MSW generation characteristics according to living style and area
 Byung-Kyu Woo, Sung-Keun Bae, Gi-sun Kim, Hong-Won Ha, In-Sick Nam,
 Changwon National University
- Poster 1 FA-2 Study on Forecast of Regional Industrial Solid Waste Generation: Framework of Systematic Approach
 Jinmei Yang, Kyoto University
 Takeshi Fujiwara, Okayama University
 Yuzuru Matsuoka, Kyoto University
- Poster 1 FA-3 Renewing Urban Waste Management System in Energy Crisis: Volume-based Garbage Collection Fee (VGCF) System in Korea
 Jung-Hoon Kim, Seo-Kyeong University
- Poster 1 FA-4 Women-led Community-based Plastic Recycling in Metro Manila, Philippines: A Case Study of KILUS Multi-purpose Cooperative
 Kevin Roy Ballado Serrona, Jeong-Soo Yu, Tohoku University
- Poster 1 FA-5 Forecasting the Remaining Capacity of Municipal Solid Waste Processing System: An Empirical Taiwan Case Study
 Yu-Chi Weng, Kyoto University
 Takeshi Fujiwara, Okayama University
 Yuzuru Matsuoka, Kyoto University
- Poster 1 FA-6 Carbon Flow Analysis for Resource Circulation and GHGs Reduction
 Mun-Sol Ju, Hye-Min Choi, Sung-Jin Bae, Dong-Hoon Lee, The University of Seoul
- Poster 1 FA-7 International Flow of Secondhand Home Appliances in East Asia
 Atsushi Terazono, Aya Yoshida, National Institute for Environmental Studies
- Poster 1 FB-1 Analysis of the Stripping Process during the Continuous Nickel Recovery from Spent Electroless Nickel Plating Baths Using Solvent Extraction
 Ying Huang, Mikiya Tanaka, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology of Japan
- Poster 1 FB-2 A study on the behavior of reforming products from wood chip tar
 Y.I Son, Korea Institute of Energy Research
 S.H.Jang, H.J Cho, Pusan National University
 J.S.Park, C.Y.Moon, Kyungwoon University
 K.Yoshikawa, Tokyo Institute of Technology
- Poster 1 FB-3 Biogas Production and Reduction of Organic Matters of Food waste by Anaerobic Digestion
 J.M.Lee, H.K.Kim, J.J.Song, Mokpo National University
 Y.H.Song, D.H.Song, Hankuk Academy of Foreign Studies
- Poster 1 FB-4 Gypsum distribution in mixed C&D waste sorting process and its state of existence in residue
 Alonso Montero, Yasumasa Tojo, Takayuki Matsuo, Toshihiko Matsuto, Hokkaido University
 Hiroshi Asakura, Masato Yamada, National Institute for Environmental Studies
 Yusaku Ono, Center for Environmental Science of Saitama prefecture
- Poster 1 FB-5 An evaluation of dual polymer conditioning in dewaterability of sewage sludge
 KiTae Park, GiJoong Cho, Byungran Lim, SooKoo Lee, Seoul National University of Technology
- Poster 1 FB-6 The characteristic of flue gas in thermal stabilization of sewage sludge cake
 Seung-Whee Rhee, Hyo-Hyun Choi, Younghun Cho, Kyonggi University
- Poster 1 FB-7 An Effect of Aluminum Content on Characteristics of Spent Foundry Sand/Sewage Sludge Ceramic Support
 Seung-Whee Rhee, Hyo-Hyun Choi, Younghun Cho, Kyonggi University
- Poster 1 FB-8 Adsorption characteristics of hydrophobic organic pollutants(HOPs) to carbonization residue of sewage sludge in the presence of dissolved humic matter(DHM)
 Hun-Young Lee, Mi-Jin Kim, Kil-Sun Jin, Yong-Jin Kim, Mokpo National Maritime University
 Seung-Mi Jeong, The University of Seoul
- Poster 1 FB-9 Leaching Reduction of Heavy Metals by Carbonization Residue of Sewage Sludge as Covering Soil in Landfill
 Min-Woo Yang, Jae-Hwi Sim, Eun-Young Park, Dong-Hoon Lee, The University of Seoul
 Yong-Jin Kim, Mokpo National Maritime University

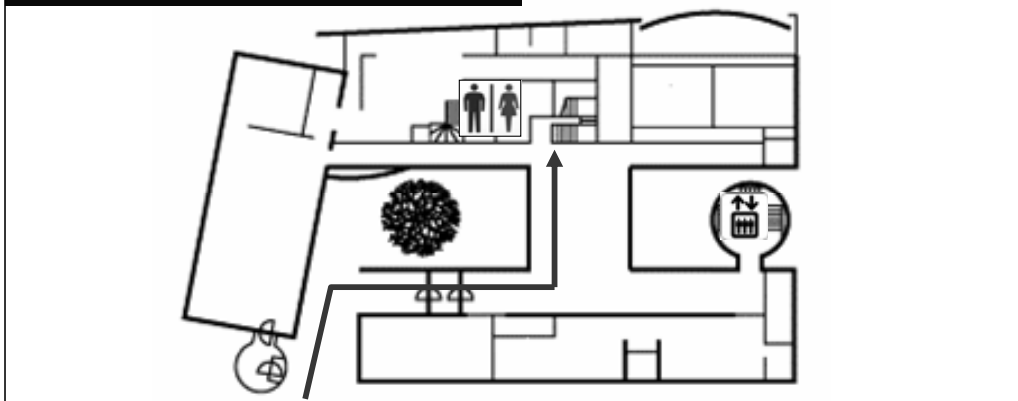
Poster 1	FB-10	A Study of sewage sludge solubilization by activity of Lactic acid bacteria Eun Young Lee, Hyun Sang Yang, Jung Eun Choi, The University of Suwon Mi Ran Lee, Jin Hee Park, Daisung Green Tech Co., Ltd.
Poster 1	FB-11	Neutralization of steel slag leachate using carbon dioxide and evaluation of carbon dioxide adsorption efficiency by slag leachate Weon Joon Lee, Chonnam National University Oh Sub Yoon, Hanbat National University
Poster 1	FB-12	In-Situ Methane Enhancement Systems using Differential Solubility of Biogas Ho Kang, Ji-Hyun Jung, Sun-Ae Lim, Chungnam National University Kwang-Beom Hur, Sang-Kyu Rhim, Korea Electric Power Corporation
Poster 1	FB-13	Production Of Hydrogen By Gasification Of Refuse Plastic Fuel And Low Level Coal Jaehoon Lee, Jong Jin Park, Jeonghwa Jang, Seung-Bok Shin, Joonho Lee, Jin-Won Park, Yonsei University
Poster 1	FB-14	Effect of shock loading on anaerobic reactor treating livestock wastewater and food wastes at low temperature Tae-kyu Eom, Jin-Seok Lee, Jong-Hyun Choi, Kyung-sung University
Poster 1	FB-15	Economical Ethanol Production by Synchronous Saccharification and Fermentation using Food Wastes Hongxian Li, Hyo-Jung Han, Seong-Jun Kim, Chonnam National University Yong-Jin Kim, Mokpo National Maritime University
Poster 1	FB-16	Development of a aerobic stabilization equipment to biodegradable waste of municipal waste in MBT system S.H.Kwon, J.S.Ban, C.G.Phae, Seoul National University of Technolohg
Poster 1	FB-17	Effect of Operating Parameters on Hydrothermal Liquefaction of Agricultural Waste Joko Sulistyoyo Yekti, Department of Urban Engineering, The University of Tokyo Teppei Nunoura, Fumiyuki Nakajima, Kazuo Yamamoto, Environmental Science Center, The University of Tokyo
Poster 1	FC-1	A Combustor design research for the Synthetic gas from liquid waste gasifier by using CFD Jisun Ju, Sangyeon Hwang, Woohyun Jung, Institute for Advanced Engineering
Poster 1	FC-2	Experimental Investigation on Gaseous Product Characteristics of Sewage Sludge Gasification Jong-in Dong, Woo-Chan Lee, Won-Gu Hwang, The University of Seoul Young-Rae Kim, Sang-Jin Jeon, USENTECH
Poster 1	FC-3	A study on the recycling technique for jelly-filled copper cable Tae-Dong Park, Bo-Gyum Kim, Korea Telecom
Poster 1	FC-4	Chloride Speciation In Washed Residue Of Two Kinds Of Fly Ash With Different Neutralization Reagent Fenfen Zhu, Masaki Takaoka, Kazuyuki Oshita, Shinsuke Morisawa, Hiroshi Tsuno, Kyoto University Yoshinori Kitajima, High energy Accelerator Research Organization (KEK)
Poster 1	FC-5	A Feasibility Study on the Barrier Liner for final Cover Systems in Landfill using Bottom Ash in a Coal-fired Power Plant Ji-Hoon Jeong, Jai-Young Lee, Kyoung-Joo Park, Joon-Ha Kim, Dae-Ryong Lee, Sang-Hun Lee, The University of Seoul Byung-Taek Oh, Chunbuk National University
Poster 1	FC-6	Effect of Admixture on Solidification/Stabilization of Fly Ash from Sewage Sludge Incinerators Gijung Cho, Yangnam Kim, Boyun Jung, Byeongran Lim, Sookoo Lee, Seoul National University of Technology
Poster 1	FC-7	Characteristic of inorganic paste prepared from MSWI bottom ash with activator Ji-Hyeon Lee, Woo-Keun Lee, Kangwon National University Se-Gu Son, Young-Do Kim, GEOWHAE.S.R Research Center
Poster 1	FD-1	Estimation of water flow and the effect of gas well installation in closed landfill Hee-Jong Kim, Daiki Endo, Masahiro Sato, Toshihiko Matsuto, Hokkaido University
Poster 1	FD-2	Seasonal Variation Of Methane Emissions In Solid Waste Disposal Sites: Case Study In Tropical Climate Region Komsilp Wangyao, National Institute for Environmental Studies Sirintornthep Towprayoon, King Mongkut's University of Technology Thonburi Chart Chiemchaisri, Kasetsart University Masato Yamada, Kazuto Endo, National Institute for Environmental Studies Tomonori Ishigaki, Ryukoku University Shabbir H.Gheewala, Annop Nopharatana, King Mongkut's University of Technology Thonburi
Poster 1	FD-3	Current situation of solid waste landfill sites in Ho Chi Minh City, Vietnam Nguyen Nhu Sang, Satoshi Soda, Osaka University Tomonori Ishigaki, Ryukoku University Kazunari Sei, Michihiko Ike, Osaka University

- Poster 1 FD-4 A feasibility study on the modified fenton oxidation of MTBE in groundwater using waste Zero-Valent Iron
So Young Moon, Jai-Young Lee, Min-Ah Oh, Gwan Ju Jung,
Gui-Yeol Lee, Min Hyun, The University of Seoul
Byung-Taek Oh, Chunbuk National University
- Poster 1 FD-5 A composite adsorbent of lanthanum and zeolite for water remediation
Daekeun Kim, Jinhjung Kim, Keumyong Kim, Heeseon Lee, Sangill Lee, Chungbuk National University
- Poster 1 FD-6 Physicochemical influences on inorganic binder by three alkaline activators
Eun Zoo Park, Tae Eun Kim, Woo-Keun Lee, Kangwon National University
Young-Do Kim, GEOWHAE.S.R Research Center
- Poster 1 FE-1 The Application of Permeable Reactive Barrier using Food Waste-Carbonized
Jung-Geun Han, Jong-Young Lee, Sun-Mi Hong, Young-Woong Kim, Chung-Ang University
- Poster 1 FE-2 Utilization of fine ferrous waste as an alternative adsorbent to remove phosphate in wastewater
Jinhjung Kim, Keumyong Kim, Chaeseong Lim, Daekeun Kim, Sangill Lee,
Chungbuk National University
- Poster 1 FE-3 The evaluation of PCDDs/DFs isomer patterns in environment using to multivariate analysis
Jin-Sung Park, Sang-Yee Ham, Ju-Ho Jang, Su-Jeong Yeom, Sang-Hyun Baek, Tae-un Park
Jae-Sung Kim, Jong Dae Kim, Ho-Sung Song, Jae-In Lee, DK science Co.,LTD.
- Poster 1 FE-4 The estimation and characteristics of PCDDs/DFs emission from the waste incinerators in Korea
Sang-Yee Ham, Ju-Ho Jang, Su-Jeong Yeom, Sang-Hyun Baek, Tae-un Park, Jin-Sung Park, Jae-Sung Kim
Jong Dae Kim, Ho-Sung Song, Jae-In Lee, DK SCIENCE Environmental Technology Center
- Poster 1 FE-5 Extraction method of PCDD/DFs in solid phase samples containing moisture and activated carbons
Ju-Tae Song, Je-Hyun Nah, Dong-Hoon Lee, The University of Seoul
Sang-Yee Ham, DK SCIENCE Environmental Technology Center
- Poster 1 FE-6 A Study of Environmental factor on the Removal Capacity of Heavy Metals by *Exophiala* sp. LH2.
Eun Young Lee, Joung Soo Lim, So Jin Lee, Keun Kim, The University of Suwon

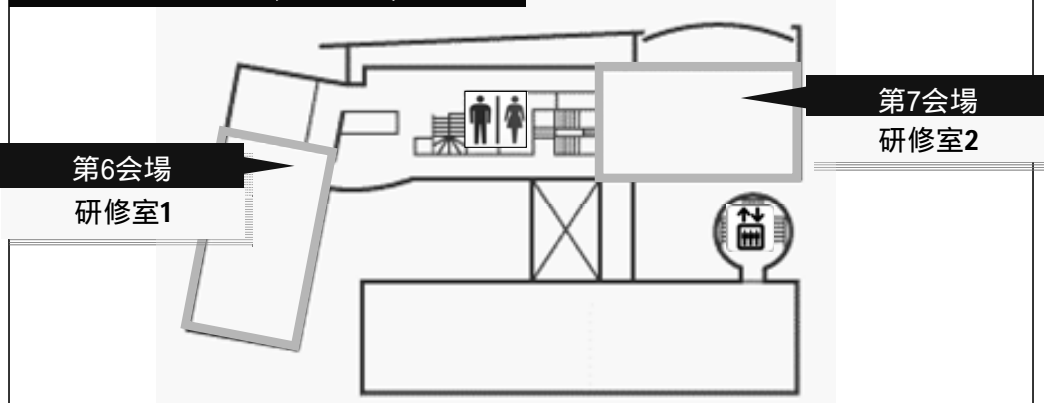




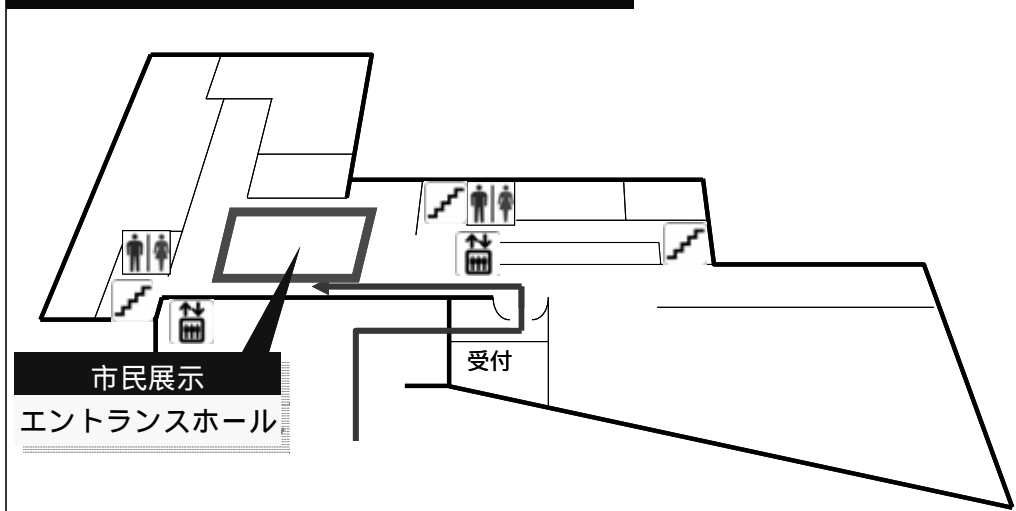
芝蘭会館（別館） 1F



芝蘭会館（別館） 2F



京都大学総合博物館 1F



会場へのアクセス

京阪電車でのアクセス

出町柳駅下車、徒歩 約 20 分。

JR / 近鉄+京都市バスでのアクセス

JR / 近鉄京都駅より、京都市バス 206 系統で「京大正門前」、または「百万遍」下車、もしくは 17 系統で「百万遍」下車 約 35 分

JR / 近鉄+地下鉄+京都市バスでのアクセス

JR / 近鉄京都駅より、地下鉄烏丸線「烏丸今出川」下車、京都市バス 201 系統で「京大正門前」、または「百万遍」下車、もしくは 203 系統で「百万遍」下車 約 35 分

京都市バス等、道路交通機関で御来場の方は、上記の所要時間は通常時の目安です。研究発表会開催期間、およびその前後は、京都は秋の観光シーズンであり、道路の渋滞が予想されます。ご注意ください。

京都大学 百周年時計台記念館
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
電話：075-753-2285、FAX：075-753-2107
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/clocktower/>

芝蘭会館
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
電話：075-753-9336、FAX：075-753-9457
<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/siran/index.htm>

京都大学総合博物館
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
電話：075-753-3272、FAX：075-753-3277
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>

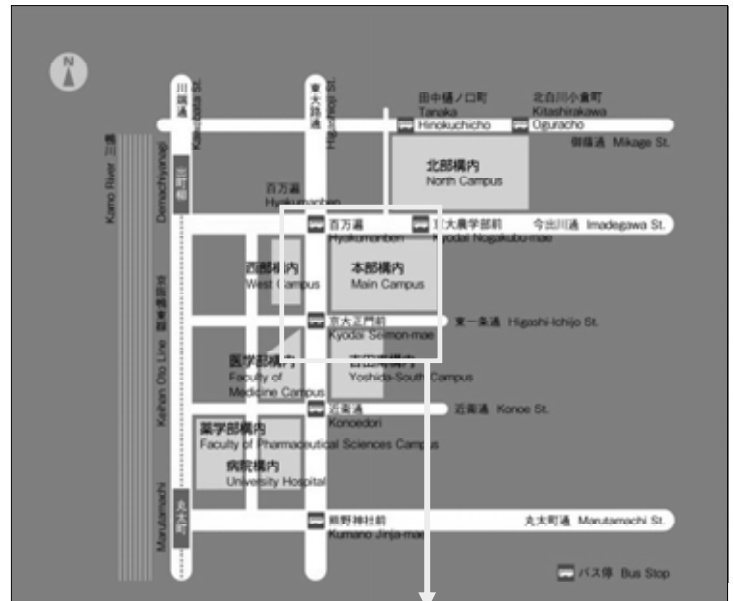
今回の研究発表会は、大きく 3 つの会場に分かれます。あらかじめ余裕をみて移動ください。

- ・ 京都大学 百周年時計台記念館 芝蘭会館 徒歩 約 6 分
- ・ 芝蘭会館 京都大学総合博物館 徒歩 約 6 分
- ・ 京都大学 百周年時計台記念館 京都大学総合博物館 徒歩 約 5 分

緊急時の問合せ先

地震や台風などの緊急時における学会の開催等の対応については、学会の臨時ホームページ：<http://jswme.gr.jp/info/>でお知らせします。(携帯電話のweb閲覧機能に対応していますが、一部の機種では表示できない可能性があります。)

その他の場合の連絡先 11月18日(火)まで 廃棄物学会事務局：03-3769-5099 (11月19日(水)～11月21日(金)不在)
11月19日(水)～21日(金) 大会本部：090-7178-2952



タイムスケジュール

百周年時計台記念館				芝蘭会館（本館）		芝蘭会館（別館）		総合博物館	
特別プログラム会場 百周年記念ホール	第1会場 国際交流ホール	第2会場 国際交流ホール	第3会場 国際交流ホール	第4会場 稲盛ホール	第5会場 山内ホール	第6会場 研修室	第7会場 研修室	市民展示会場	
11月 水曜日	09:00-13:00 施設見学会								
	12:00- 受付								
	特別プログラム 第1部 廃棄物系 バイオマスの 利活用 - 生ごみや食用油などのバイオマスの利活用に向けて -	13:00-14:30 A2 減量化 / 有料化・経済的手法(1)	13:00-14:45 D2 埋立ガス・浸出水	13:00-14:45 C1 焼却・溶融処理技術	13:00-14:30 E1 アスベストの無害化処理				13:00-17:00 市民展示
		15:00-16:45 A3 有料化・経済的手法(2)	15:00-16:45 D3 埋立地モニタリング	15:00-16:45 C2 熱分解・ガス化	15:00-17:00 国際シンポジウム		15:00-16:45 小集会 廃棄物計画部会		
17:10-18:30 ポスター発表(第1グループ:プログラム中に「ポスター-1」と表記)、国際ポスター発表 : 芝蘭会館ロビーおよび第5会場									
	18:45-20:30 小集会 バイオマス研究部会	18:45-20:30 小集会 廃棄物埋立処分研究部会	18:45-20:30 若手の会	18:45-20:30 小集会 有害廃棄物研究部会		18:45-20:30 小集会 ごみ文化研究部会			
(木) 11月 20日	特別プログラム 第2部 近畿圏の廃棄物 広域処理システム を考える - 大阪湾フェニックス計画をめぐって -	09:30-11:30 A4 住民意識 / 環境教育	09:30-10:45 A8 安全対策 / 廃棄物行政	09:30-10:45 C4 排ガス中重金属類・未規制物質	09:30-11:15 B9 バイオディーゼル・エタノール化	09:30-10:45 B1 容器包装リサイクル		09:30-11:15 小集会 消費者市民・社会経済合同部会	
			11:00-12:15 A7 LCA・産業連関分析	11:00-12:00 E3 有害物質 / 有害性試験	11:30-12:30 B7 バイオガス化		10:45-12:15 小集会 行政部会	11:15-17:00 市民展示	
	12:50-14:10 ポスター発表(第2グループ:プログラム中に「ポスター-2」と表記) : 芝蘭会館ロビーおよび第5会場								
	14:30-16:00 特別プログラム 第3部	特別講演 「ごみを身近に感じること」安田喜憲氏 鎌山秀三郎氏						:特別プログラム会場	
16:15-17:50 特別プログラム 第4部	3R から「積極的2R」へ - ごみ有料化の向こうに見えるもの -						:特別プログラム会場		
(金)	18:00-20:00 意見交換会 : 第2会場・第3会場								
11月 21日		09:30-11:15 A1 ごみフロー解析 / ごみ性状	09:30-11:15 A9 地域循環 / 越境移動	09:30-11:30 B2 耐久消費財・廃プラスチックのリサイクル	09:30-11:30 D5 不法投棄 / 土壌・地下水汚染	09:30-11:30 C5 焼却灰の特性・安定化処理	09:30-11:30 B5 有機性廃棄物の資源化(1)	09:30-11:30 小集会 試験・検査法研究部会	09:30-16:30 市民展示
		11:20-11:50 平成19年度廃棄物学会賞受賞記念講演 奨励賞 橋本征二氏		11:35-12:05 平成19年度廃棄物学会賞受賞記念講演 論文賞 平井康宏氏	11:35-12:05 平成19年度廃棄物学会賞受賞記念講演 奨励賞 石井一英氏				
		13:00-14:30 B4 下水汚泥・無機性廃棄物の資源化	13:00-14:45 B6 有機性廃棄物の資源化(2)	13:00-14:45 小集会 リサイクル部会	13:00-14:30 D4 埋立地早期安定化	13:00-14:45 C6 焼却・溶融飛灰 / 溶融スラグ	13:00-14:45 A5 廃棄物管理・計画・評価	13:00-16:30 全国環境研協議会 廃棄物小委員会	
		15:00-16:00 B8 水素発酵 / バイオマス発電	15:00-16:30 B3 食品廃棄物・生ごみの資源化	15:00-16:15 E2 PCB・有害廃棄物の処理	15:00-16:30 D1 埋立地しゅ水 / 被覆型処分場	15:00-16:30 C3 焼却排ガス処理	15:00-16:30 A6 収集運搬・輸送		

網掛けは <無料・一般公開プログラム> を表します。